

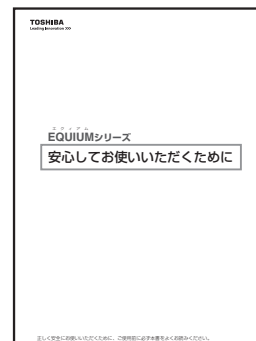


マニュアルについて

本製品に付属しているマニュアルを紹介します。

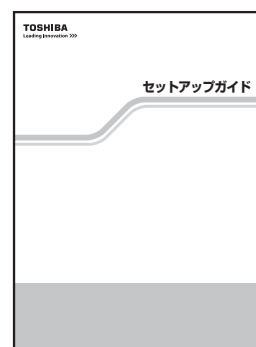
安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いになるときに
守っていただきたいこと
ご使用の前に必ずお読みください。



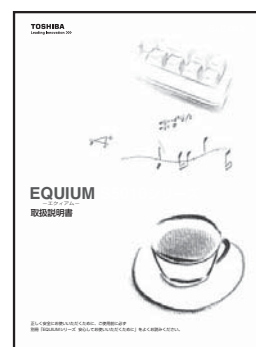
セットアップガイド

- Windowsのセットアップガイド
- 初期状態に戻す（リカバリー）
- パソコンの動作がおかしいときは
- 廃棄／譲渡について



取扱説明書（本書）

- 接続方法
- ハードウェアについて
- パソコンの取り扱い
- 困ったときのQ&A
- BIOSセットアップ



その他の説明、ご案内など

- 保守サービスのご案内
- 付属品チェックリスト
- 保証書
- など



もくじ

マニュアルについて	1
もくじ	2
はじめに	5
本書の読みかた	9
1 章 パソコンの準備	11
1 付属品の確認	12
2 各部の名称と機能	13
1 本体正面	13
2 本体背面	15
3 マウス	17
3 接続について	18
1 接続完成図	18
2 ディスプレイ（別売り）の接続	18
3 マウスの接続	21
4 キーボードの接続	22
5 電源への接続	22
6 横置きで使用する場合	24
4 初めて電源を入れるときは	26
1 電源を入れる	26
2 ユーザー登録をする	27
2 章 使い終わりと使いはじめ	29
1 使い終わったら	30
1 電源を切る	30
2 スリープにする	32
2 電源の入れかた	35
3 省電力機能について	36
1 省電力機能について	36
2 システムの省電力モードについて	36
3 省電力モードへの移行	37
4 省電力モードからの復帰	40

3 章	ハードウェアについて	41
1	キーボード	42
2	ドライブ	44
3	i.LINK (IEEE1394) 対応機器	52
4	ブリッジメディアスロット	54
5	機器の拡張を行うときは	57
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	59
7	増設メモリ	63
4 章	パソコンの取り扱い	67
1	日常の取り扱いについて	68
2	内蔵バッテリーの交換	70
5 章	困ったときは	73
1	困ったときのQ & A	74
6 章	BIOS セットアップ	83
1	BIOS セットアップを使う	84
1	起動と終了／BIOS セットアップの操作	84
2	BIOS セットアップの画面と設定項目	86
1	BIOS セットアップの画面	86
2	各メニューの概要	86
3	設定項目	87
3	パスワードの設定	91
1	管理者パスワード	93
2	ユーザーパスワード	94
3	HDD ユーザーパスワード	94
4	TPM を使う	96
1	TPM とは	96
2	BIOS セットアップでのTPM の設定	97
3	TPM のインストール方法	98
4	Security Platform の初期化	98
5	パソコンを捨てるとき／人に譲るとき	99

5	起動ドライブの設定.....	100
1	電源を入れるときに変更する.....	100
2	「BIOSセットアップ」で変更する.....	100
付録.....		101
1	製品仕様.....	102
2	各インターフェース.....	105
3	エラーメッセージ.....	109
4	技術基準適合について.....	110
5	Windows 7でCD/DVDに書き込む.....	112
	トラブルチェックシート.....	115

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書は本製品の基本的な取り扱い方を説明しています。

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

● 記載について

- ・ 本書に記載している画面は、表示例です。実際に表示される画面と異なる場合があります。
- ・ 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

● Trademarks

- ・ Intel、インテル、インテル Coreはアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ Microsoft、Windows 及び Windows ロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- ・ Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティックデュオ、メモリースティック PRO、メモリースティック PRO デュオ、メモリースティック マイクロ、"OpenMG" および "OpenMG" ロゴは、ソニー株式会社の登録商標または商標です。
- ・ SD ロゴは商標です。()
- ・ SDHC ロゴは商標です。()
- ・ SDXC ロゴは商標です。()
- ・ xD-ピクチャーカード™は、富士フイルム(株)の商標です。
- ・ Adobe、Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- ・ デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- ・ 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- ・ TREND MICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。

● プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。

これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサが搭載されております。64ビット版OSでご使用の場合は、32ビット版のデバイスドライバーやアプリケーションが正しく動作しない場合があります。

● 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

● お願い

- 記憶装置（ハードディスク、外部記憶メディア）や、CD/DVDに記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- 購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェア領域を壊すおそれがあります。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

☞ 「1章 4-2 ユーザー登録をする」

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

● 【ユーザー アカウント制御】 画面について

操作の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

● 参照マニュアル

- 本製品で使用するオペレーティングシステム（OS）の説明については、『Windows ヘルプとサポート』をご覧ください。
- ご購入のモデルによって、次のアプリケーションを添付しています。
 - ・ Adobe Reader
 - ・ ウィルスバスター
 - ・ i-フィルター
 - ・ PC引越ナビ
 - ・ Microsoft Office Personal 2013 または Microsoft Office Home and Business 2013
 - ・ TOSHIBA Disc Creator（Windows 7 の場合のみ）

各アプリケーションの説明については、それぞれの『アプリケーションに付属の説明書』または『アプリケーションのヘルプ』をご覧ください。

「ウィルスバスター」、「i-フィルター」、「PC引越ナビ」を初めて使用するときには、スタート画面のタイルのない部分で右クリックし、[すべてのアプリ] をクリックして、[アプリケーションの再インストール] からインストールしてください。

● 「コントロールパネル」と「コンピューター」画面の表示方法

パソコンの色々な機能を設定するときなどに使用する「コントロールパネル」や、セットしているメディアやデータを確認するときなどに使用する「コンピューター」画面を表示する方法は、次のとおりです。

- ① スタート画面で [デスクトップ] をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
- ② [デスクトップアプリメニュー] アイコン () をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
- ③ 画面左側の [コントロールパネル] また [コンピューター] をクリックする
「コントロールパネル」を表示する場合は、[コントロールパネル] をクリックします。
[コンピューター] 画面を表示する場合は、[コンピューター] をクリックします。

● 『Windows ヘルプとサポート』の起動方法

『Windows ヘルプとサポート』の起動方法は、次のとおりです。

- ① スタート画面のタイルのない部分で右クリックする
- ② [すべてのアプリ] をクリックする
- ③ [Windows システムツール] の [ヘルプとサポート] をクリックする

● 本書の読みかた

● 記号の意味



警告

・“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷^{*1}を負うことが想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。



注意

・“取り扱いを誤った場合、使用者が^{しょうがい}傷害^{*2}を負うことが想定されるか、または物的損害^{*3}の発生が想定されること”を示します。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。



お願い

・データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。



メモ

・知っていると便利な内容を示します。



参照先を示しています。

本書内の参照先は「 」で示し、ほかのマニュアルの参照先は『 』で示しています。

（注） 補足説明をしています。

● 画面の表しかた

画面の全部、または一部を表します。

【例】

Size : XXXX MB

——— このように画面上または本文中の文字を X で表している場合は、実際にはさまざまな数字や記号が入ります。

● 入力するキーの表現

操作で入力するキーを本文中で表すときには、説明に必要な部分だけを□で囲んで示しています。

Y キーを押す  を押してください。

! キーを押す  を押してください。

Space キーを押す  を押してください。

● キー操作の表しかた

操作や作業は、次のように示します。

【例】

操作が1つで済む場合は、次のように示します。

Y キーを押す

キーを「+」でつないで書いてあるときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。

Ctrl + Alt + Delete キーを押す

Ctrl キーと Alt キーを押したまま Delete キーを押します。

● 用語について

本書では、次の用語について定義します。

システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム（OS）を示します。

Windows Windows 8 Pro または Windows 7 Professional を示します。

Windows 8 Windows 8 Pro を示します。

Windows 7 Windows 7 Professional を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
..... アプリケーションソフトウェアを示します。

ドライブ DVD-ROM ドライブ または DVD スーパーマルチドライブを示します。
内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

DVD-ROM モデル DVD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD スーパーマルチモデル
..... DVD スーパーマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

Office 搭載モデル Microsoft Office Personal 2013 または Microsoft Office Home
and Business 2013 がプレインストールされているモデルを示します。

Office Personal 2013
..... Microsoft Office Personal 2013 を示します。

Office Home and Business 2013
..... Microsoft Office Home and Business 2013 を示します。

1

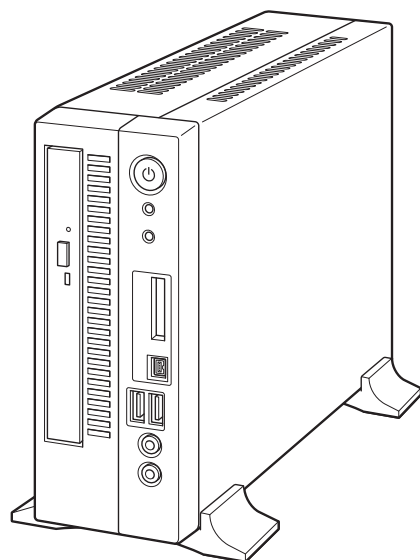
パソコンの準備

本章では、パソコンの電源を入れる前に必要な準備と、初めて電源を入れるときやユーザー登録について説明します。

1	付属品の確認	12
2	各部の名称と機能.....	13
3	接続について	18
4	初めて電源を入れるときは	26

1 付属品の確認

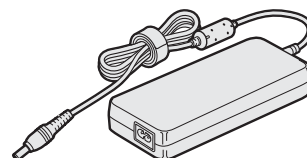
主な付属品を次にあげます。『付属品チェックリスト』で付属品をご確認ください。
万が一、本製品に不都合な点が生じた場合は、お買い上げの販売店、または『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、東芝指定のサービス会社までご連絡ください。



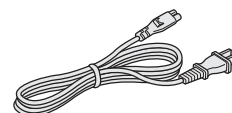
EQUIUM本体



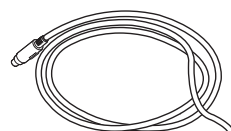
マウス



ACアダプター



電源コード



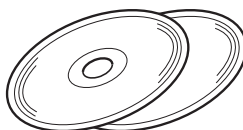
キーボード



横置き用
ゴム足 (4個)



ケーブルフック



リカバリー用DVD-ROMなど
詳細は『付属品チェックリスト』
をご覧ください。

(注) 付属のマニュアルについては、「マニュアルについて」をご覧ください。このほかにも、付属品があります。『付属品チェックリスト』をご覧ください。

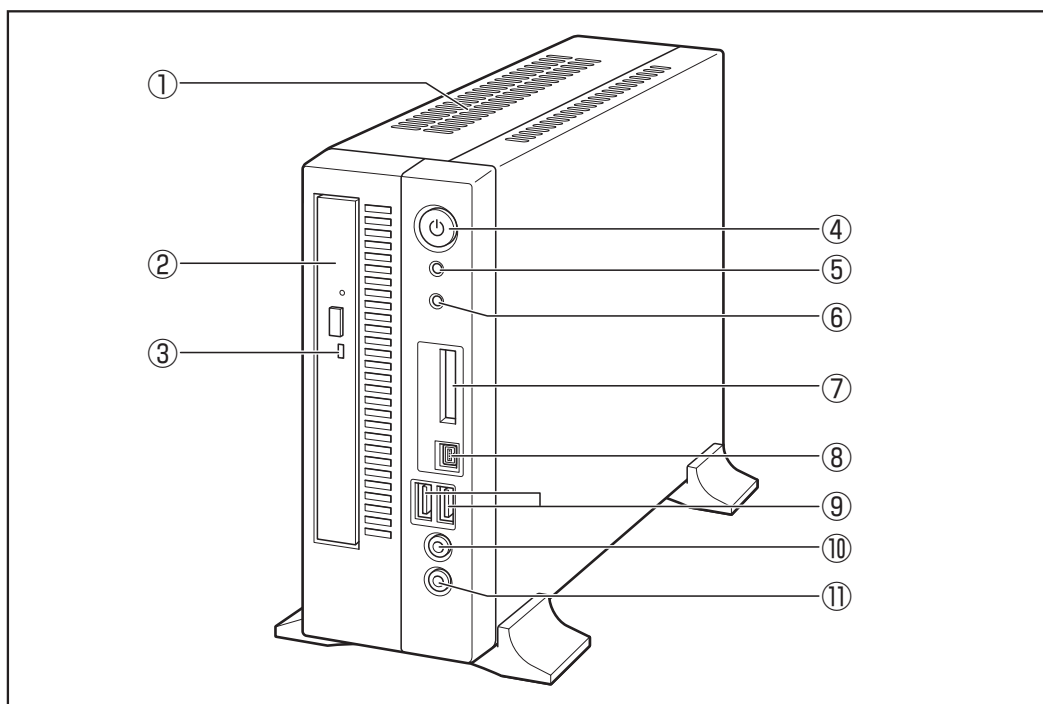


注意

- ・ 付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター以外には使用しない
付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター専用です。

② 各部の名称と機能

① 本体正面



① 通風孔

本体内部で発生する熱を放出します。ふさがないようにください。

② ドライブ

CD/DVDが使用できます。

🔊 CD/DVDのセットと取り出し ➡ 「3章 2 ドライブ」

③ ドライブのアクセスランプ

CD/DVDへのアクセスが行われているときに、緑色に点灯します。

④ 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるためのスイッチです。

電源を入れるときは、電源スイッチを押し、電源ランプが点灯したことを確認してから離します。

Windowsが起動した状態で押すと、省電力モードになります。省電力モード時に押すと、通常モードに復帰します。4秒以上押し続けた場合は強制的に電源を切ります。強制的に電源を切ると、作成中のデータは消失します。



お願い

・ スイッチ類を強く押し込まないでください。
本体が壊れるおそれがあります。

・ 通常モードから省電力モードへの切り替えおよび省電力モードの解除には、多少時間がかかります(システムの状態によって異なります)。

🔊 電源の入れかた／切りかたについて ➡ 「2章 使い終わりと使いはじめ」

⑤ 電源ランプ

システムの電源状態をあらわします。

緑色に点灯 電源オン状態のとき

緑色に点滅 スリープ中のとき

消灯 電源オフおよび休止状態のとき



お願い

・ 電源オンおよびスリープ中のときに、電源スイッチを4秒以上押し続けしないでください。強制的に電源が切れ、作成中のデータは失われます。

省電力機能の設定によっては、電源オン状態でもディスプレイの画面表示が消えることがあります。

☞ 省電力モードについて ☞ 「2章 3 省電力機能について」

⑥ HDD アクセスランプ

ハードディスクドライブの読み書きが行われているときに緑色に点灯します。

⑦ ブリッジメディアスロット

SDメモ리카ード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードのデータの読み出しや書き込みができます。

☞ SDメモ리카ード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードのセットと取り出し

☞ 「3章 4 ブリッジメディアスロット」

⑧ i.LINK (IEEE1394) コネクタ

i.LINK (IEEE1394) 対応機器が接続できます。

☞ 「3章 3 i.LINK (IEEE1394) 対応機器」

⑨ USB コネクタ (×2)

USB2.0/1.1 対応機器が接続できます。

⑩ ヘッドホン出力端子

3.5φmm ステレオミニジャックタイプのヘッドホンが接続できます。

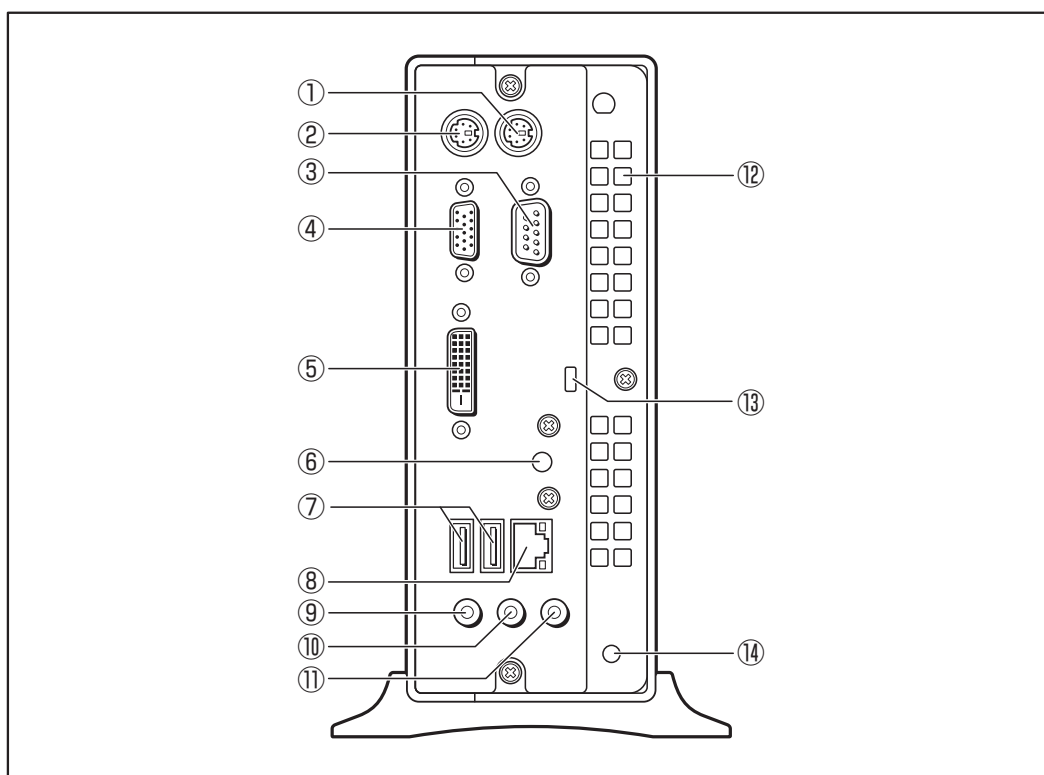
ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、LINE OUT 端子に接続した外部スピーカーからサウンドが出力されません。

フロントパネルジャックの検出を無効にするには、[コントロールパネル] を開き、[ハードウェアとサウンド] → [Realtek HD オーディオマネージャ] をクリックし、表示された画面の右上にある [コネクタ設定] () をクリックして、[フロントパネルジャック検出を無効にします。] をチェックしてください。

⑪ マイク入力端子

3.5φmm モノラルミニジャックタイプのマイクが接続できます (本製品にマイクは付属していません。パソコン用コンデンサーマイクをお買い求めください)。

2 本体背面



① マウスコネクタ

市販のPS/2 マウスを接続します。

② キーボードコネクタ

付属のキーボードを接続します。

 キーボードの接続 ⇨ 「本章 3-4 キーボードの接続」

③ シリアルコネクタ {...}

RS-232C 規格の機器が接続できます。

④ アナログRGB コネクタ

アナログディスプレイを接続するためのコネクタです。

 ディスプレイの接続 ⇨ 「本章 3-2 ディスプレイ（別売り）の接続」

⑤ デジタルRGB コネクタ

DVI-D 準拠のディスプレイを接続するためのコネクタです。他社製デジタルRGBディスプレイを接続した場合、正常に表示できない場合があります。

 ディスプレイの接続 ⇨ 「本章 3-2 ディスプレイ（別売り）の接続」

⑥ DC ジャック

AC アダプターを接続します。

 電源の接続 ⇨ 「本章 3-5 電源への接続」

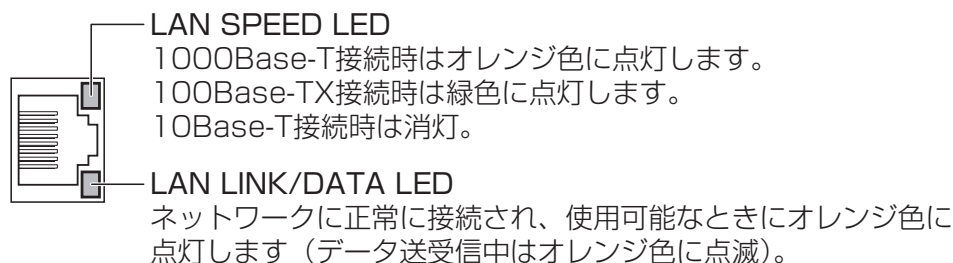
⑦ USB コネクタ (×2)

USB2.0/1.1 対応機器が接続できます。

⑧ LANコネクタ

ネットワークケーブルを接続します。ネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定を行ってください。

コネクタ両脇のインジケータはLANの動作状態を示します。



⑨ マイク入力端子

3.5φmmモノラルミニジャックタイプのマイクが接続できます（本製品にマイクは付属していません。パソコン用コンデンサマイクをお買い求めください）。

⑩ LINE OUT 端子

3.5φmmステレオミニジャックタイプのスピーカーが接続できます。

本製品には外部スピーカーは付属していません。アンプ付き外部スピーカーをお買い求めください。また、本体前面のヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、LINE OUT 端子に接続した外部スピーカーからサウンドが出力されません。

フロントパネルジャックの検出を無効にするには、[コントロールパネル]を開き、[ハードウェアとサウンド] → [Realtek HD オーディオマネージャ]をクリックし、表示された画面の右上にある[コネクタ設定]（)をクリックして、[フロントパネルジャック検出を無効にします。]をチェックしてください。

⑪ LINE IN 端子

3.5φmmステレオミニジャックタイプのケーブルを使用してオーディオ機器などが接続できます。

⑫ 通風孔

本体内部で発生する熱を放出します。ふさがないでください。

⑬ セキュリティロックスロット

盗難を抑止するためのセキュリティケーブルが接続できます。

セキュリティケーブルは、本製品に対応しているものをご利用ください。

詳しくは販売店などに確認してください。



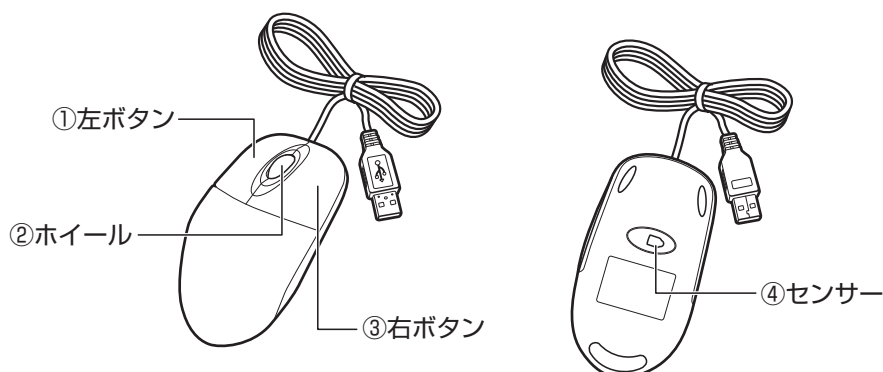
お願い

・本製品のセキュリティロックスロットおよび接続するセキュリティケーブルは盗難を抑止するためのものであり、万が一発生した盗難事故の被害について、当社はいっさいの責任を負いません。

⑭ ケーブルフック用取り付け穴

ACアダプターのケーブルを固定するためのフックを差し込みます。

③ マウス



注意

・マウス底面の光学式センサーの赤色などの光を直接見ないでください。
目を痛めるおそれがあります。

① 左ボタン

文字やアイコンを選択することができます（アプリケーションにより、機能が異なります）。

② ホイール

画面のスクロールなどができます（ホイール付きマウス対応のアプリケーションで使用できます）。

③ 右ボタン

選択したアイコンやファイルなどに対して関連するメニューを表示します（アプリケーションにより、機能が異なります）。

④ センサー

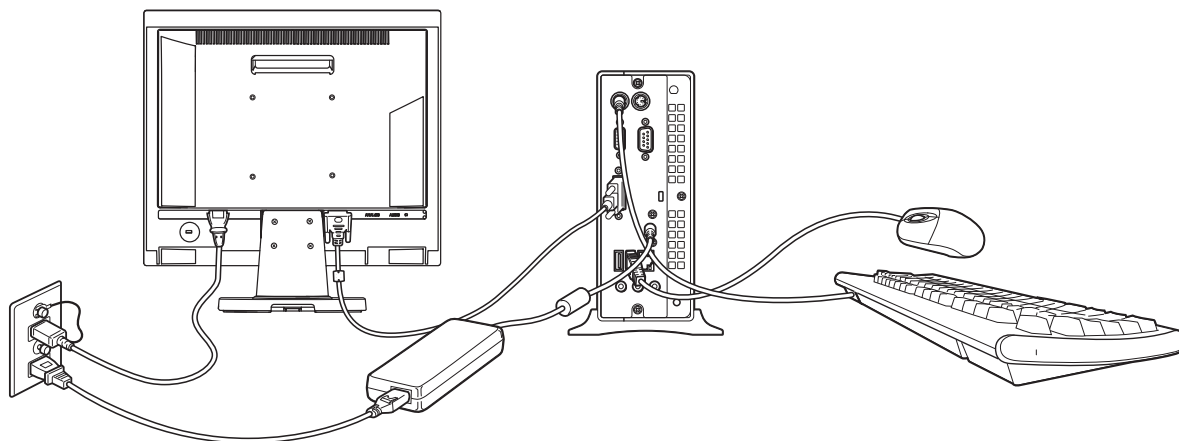
③ 接続について

ケーブル類を接続する際には、次のことにご注意ください。

- 本体および接続する機器の電源を切る
- ケーブル類の取り付け／取りはずしは、必ずコネクタやプラグを持って行う
- コネクタの形状に注意して差し込み、コネクタに固定ネジがある場合はしっかりと固定する
- 次のものはシステムのセットアップが終了してから接続する
 - ・ LAN ケーブル
 - ・ 増設メモリ
 - ・ プリンターなどの周辺機器

① 接続完成図

EQUIUM 本体に、主な周辺機器を接続した例を次に示します。



(注) EQUIUM にディスプレイは付属しておりません。

本製品は、縦置きで使用することを推奨します。以降、縦置きの場合について説明しています。



お願い

- ・ 本体上面および側面、底面の通風孔からは本体内部で発生する熱を排気しています。通風孔をふさがないようにしてください。また、排気の妨げになるようなものを周辺に置かないようにしてください。
- ・ 縦置きでご使用の場合、台座は必ず取り付けたまの状態で設置してください。

② ディスプレイ（別売り）の接続

接続の際は『ディスプレイに付属の説明書』をご覧ください。作業を行ってください。

本体とデジタルディスプレイを接続する場合は、デジタルRGB信号ケーブルを使用してください。本体とアナログディスプレイを接続する場合は、アナログRGB信号ケーブルを使用してください。本体にデジタルRGB信号ケーブルとアナログRGB信号ケーブルの両方を接続している場合で、どちらか一方のケーブルがディスプレイに接続していないときは、接続していないケーブルを本体からはずしてください。



お願い

- ・ 電源コードは、必ずディスプレイに付属のものをお使いください。市販の電源コードやほかの電気製品の電源コードには、形状が同じでも定格電圧・電流が異なるものがあります。
- ・ 電源コードのプラグから出ているアース線は、安全のため必ずアース端子に接続してください。万が一漏電した場合の感電を防止します。
- ・ 電源コードを接続する場合は、①アース線、②プラグの順に行ってください。

● デジタルRGBディスプレイの接続



メモ

・ DVI-D 準拠のディスプレイが接続できます。

● 取り付け

- 1 ディスプレイの電源、本体の電源が切れていることを確認する
- 2 ディスプレイの電源コード、デジタルRGB信号ケーブル、オーディオケーブルをディスプレイに取り付ける

📖 詳細について ➡ 『ディスプレイに付属の説明書』



メモ

・ ディスプレイの機種によっては、オーディオケーブルが付属しない場合があります。この場合は、別売りのオーディオケーブルを使用してください。

・ ディスプレイの機種によっては、オーディオ端子がない場合があります。この場合は、パソコン本体背面のLINE OUT 端子にスピーカーを接続してください。

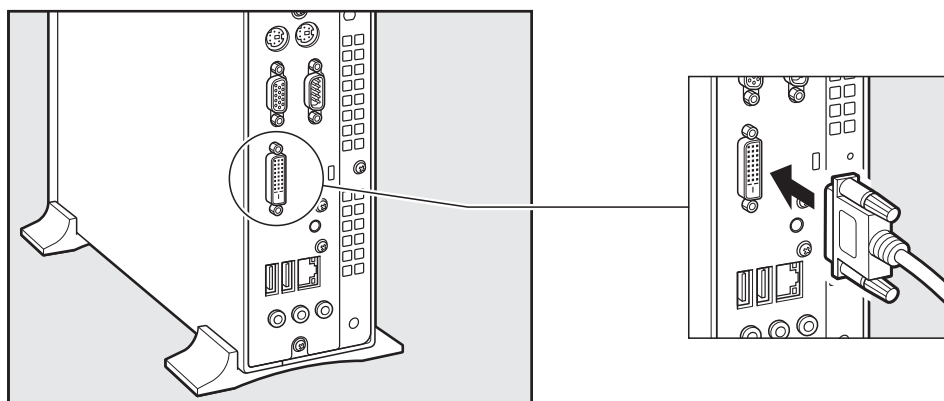
📖 詳細について ➡ 『ディスプレイに付属の説明書』

- 3 デジタルRGB信号ケーブルコネクタを本体背面のデジタルRGBコネクタ
□➡ に接続し、固定用ネジを手で回して固定する



お願い

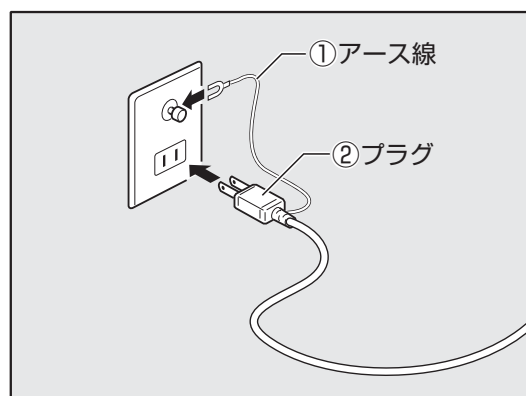
・ 固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバーなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。



- 4 オーディオケーブルを本体背面のLINE OUT 端子 ♪➡ に接続する

- 5 電源コードのアース線をアース端子に接続する①

- 6 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



⚠ 注意

- ・電源プラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む
AC100V以外の電源コンセントに差し込むと火災・感電の原因となります。

● 取りはずし

デジタルRGB信号ケーブル、オーディオケーブル、電源コードを取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順で行ってください。電源コードを取りはずす場合は、①プラグ、②アース線の順に行ってください。



お願い

- ・デジタルRGB信号ケーブルを本体から取りはずす場合は、デジタルRGB信号ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがデジタルRGBコネクタから完全にはずれた状態で行ってください。
固定用ネジがデジタルRGBコネクタに接続された状態で、デジタルRGB信号ケーブルに無理な力を加えると、デジタルRGB信号ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

● アナログRGBディスプレイの接続

● 取り付け

- 1 ディスプレイの電源、本体の電源が切れていることを確認する
- 2 ディスプレイの電源コード、アナログRGB信号ケーブル、オーディオケーブルをディスプレイに取り付ける

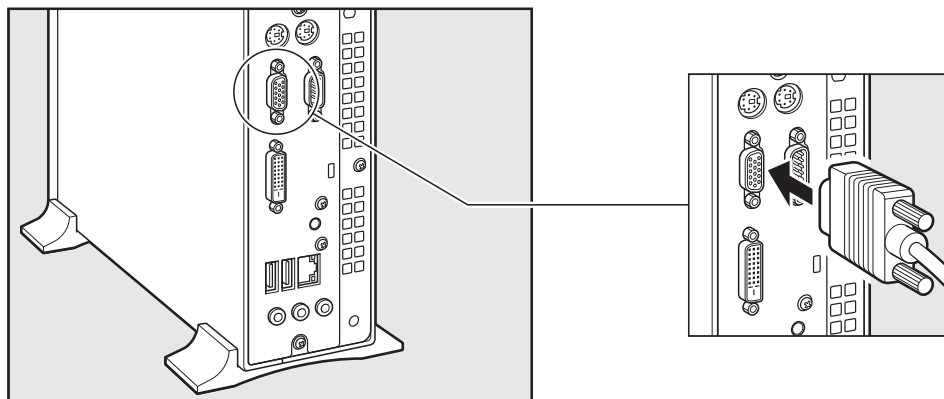
📖 詳細について ➡ 『ディスプレイに付属の説明書』



メモ

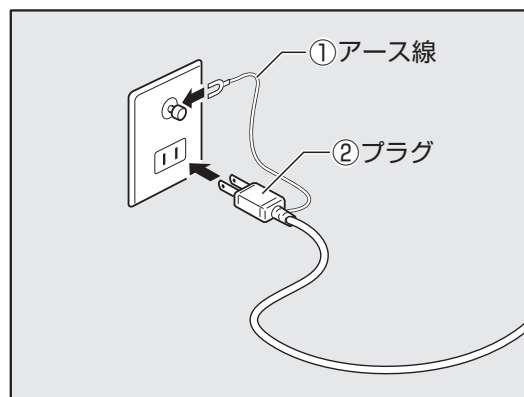
- ・ディスプレイの機種によっては、オーディオケーブルが付属しない場合があります。この場合は、別売りのオーディオケーブルを使用してください。
 - ・ディスプレイの機種によっては、オーディオ端子がない場合があります。この場合は、パソコン本体背面のLINE OUT端子にスピーカーを接続してください。
- 📖 詳細について ➡ 『ディスプレイに付属の説明書』

- 3 信号ケーブルコネクタを本体背面のアナログRGBコネクタ □ に接続し、固定用ネジを手で回して固定する



お願い

- ・固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバーなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。

4 オーディオケーブルを本体背面のLINE OUT 端子 ♪→ に接続する**5** 電源コードのアース線をアース端子に接続する①**6** 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②**⚠ 注意**

・電源プラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む
AC100V以外の電源コンセントに差し込むと火災・感電の原因となります。

● 取りはずし

信号ケーブル、オーディオケーブル、電源コードを取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順を行ってください。
電源コードを取りはずす場合は、①プラグ、②アース線の順に行ってください。

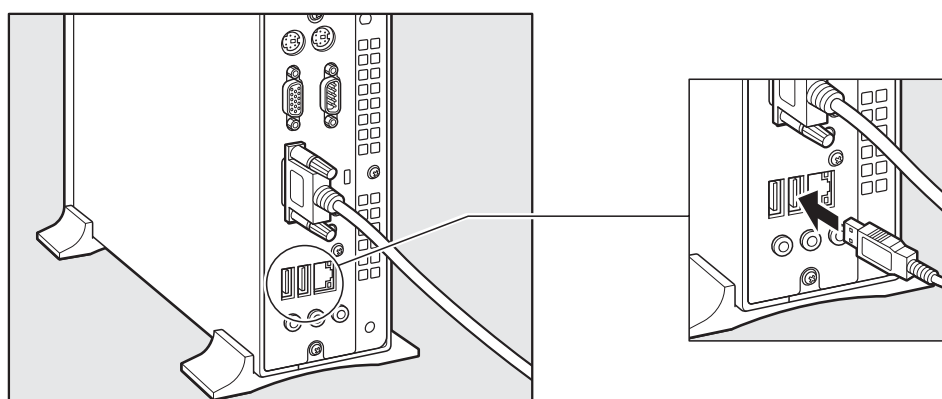


お願い

・信号ケーブルを本体から取りはずす場合は、信号ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがアナログRGBコネクタから完全にはずれた状態で行ってください。
固定用ネジがアナログRGBコネクタに接続された状態で、信号ケーブルに無理な力を加えると、信号ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

③ マウスの接続**1** 本体の電源が切れていることを確認する**2** マウスのプラグをUSBコネクタ ♻ に差し込む

マウスのプラグは、しっかりと奥まで差し込んでください。



* 上のイラストは一例として、本体背面のUSBコネクタを載せています。本体正面のUSBコネクタに接続することもできます。

4 キーボードの接続



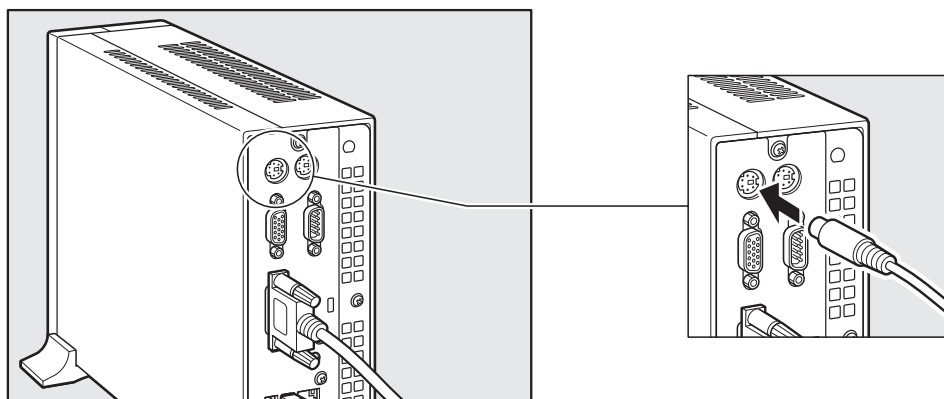
お願い

- ・キーボードの接続は、本体の電源が切れている状態で行ってください。
本体の電源が入った状態で接続すると、本体の故障の原因となることがあります。

1 本体の電源が切れていることを確認する

2 キーボードのプラグを本体背面のキーボードコネクタ に差し込む

キーボードのプラグは、プラグに印刷されているキーボードマークを右にして、しっかりと奥まで差し込んでください。



5 電源への接続

空調機や複写機などの高い消費電力を必要としたり、ノイズを発生させる機器と同じ電源コンセントから電源を取らないでください。

定格電圧	AC100 V (50Hz/60Hz)
消費電力	最大 120 W



警告

- ・電源コードは付属のコードを必ず使用する
付属のコード以外を使用すると火災・感電の原因となります。

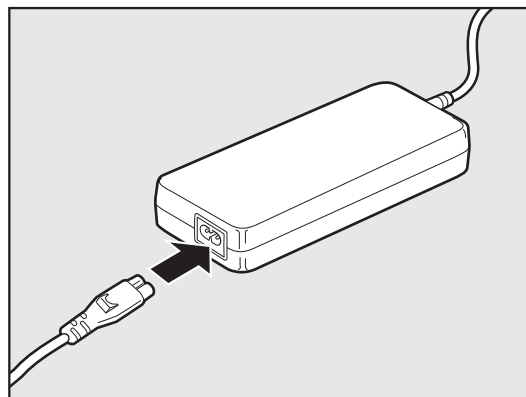


お願い

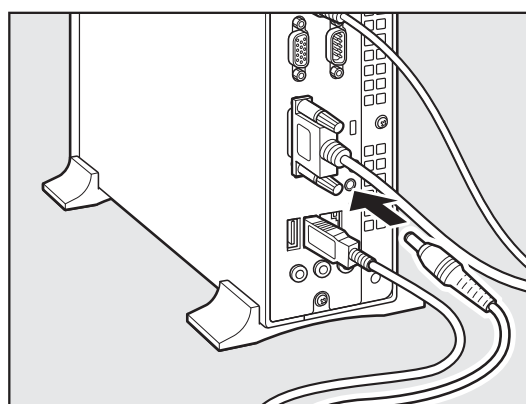
- ・電源コードの接続は、最後に行ってください。
- ・電源コンセントから抜くときは必ず差し込みプラグを持って引き抜いてください。
- ・コードの上に重いものを載せないでください。
- ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、結んだり、つぎ足したりしないでください。
- ・熱器具に触れないよう、十分な距離をとってください。

1 ディスプレイの電源が切れていることを確認する

2 ACアダプターと電源コードを接続する



3 ACアダプターのプラグを本体背面のDCジャックに差し込む



4 電源コードのプラグを電源コンセント（AC100V）に接続する



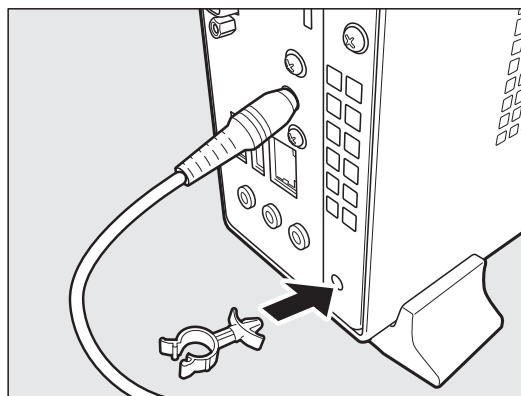
注意

・電源プラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む
AC100V以外の電源コンセントに差し込むと火災・感電の原因となります。

● ACアダプターのケーブルを抜けにくくする

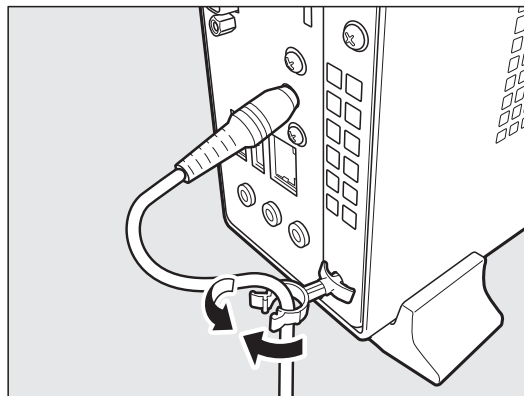
パソコン本体の背面にケーブルフックを取り付け、フックでACアダプターのケーブルを固定することにより、ケーブルを抜けにくくすることができます。

1 ケーブルフックを、ケーブルフック用取り付け穴に差し込む



2 ACアダプターのケーブルを、ケーブルフックで固定する

フックの中にケーブルを入れて、フックをしっかり閉じてください。



ACアダプターのケーブルをフックから取りはずすときは、フックを開いてください。

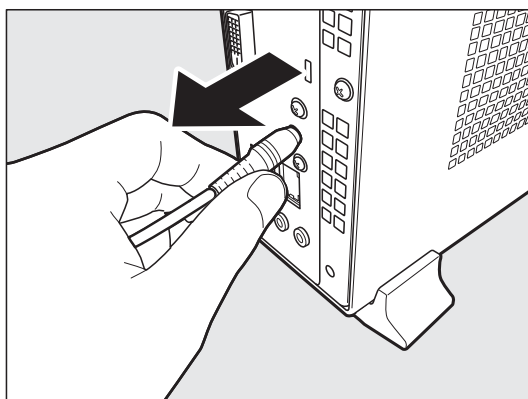
● 電源コードとACアダプターの取りはずし

電源コードとACアダプターを取りはずすときは、接続と逆の手順を行ってください。



お願い

- ・ ACアダプターのプラグを本体から取りはずす場合は、プラグを持ち、本体背面のDCジャックから取りはずしてください。



6 横置きで使用する場合

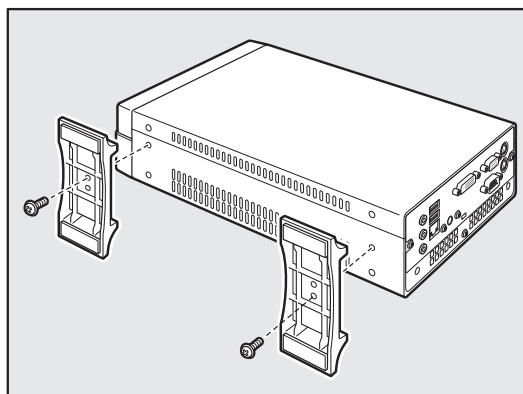
本体を横置きで使用する場合には、台座を取りはずしたあと、底面になる側（形名が記載されているラベルが貼られている側）に横置き用ゴム足を貼り付けます。

● 横置きで使用する場合のお願い

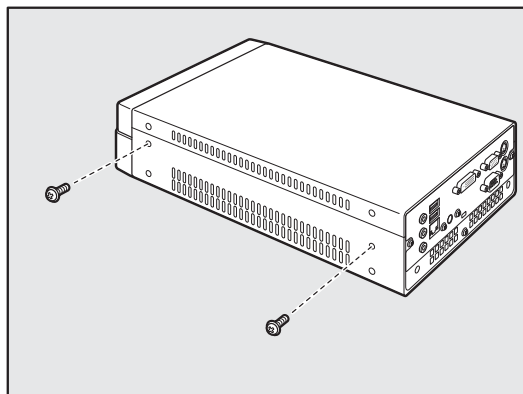
- ものをのせないでください。
- 本体を横置きに設置した場合の本体側面および上面には通風孔があり、本体内部で発生する熱を排気しています。
通風孔をふさがないようにしてください。また、排気の妨げになるようなものを周辺に置かないようにしてください。
- 本体を横置きに設置しているときは、ディスプレイの前にキーボードなどの障害物があると、ディスプレイがイジェクトされない場合があります。ディスプレイの前に障害物を置かないようにしてください。
- 横置きでご使用の場合、横置き用ゴム足を貼り付けた面を下にして設置してください。

1 電源を入れている場合は電源を切り、本体からACアダプターと周辺機器のケーブル類をはずす

2 本体を横置きにして、台座固定用ネジをはずし、台座を取りはずす



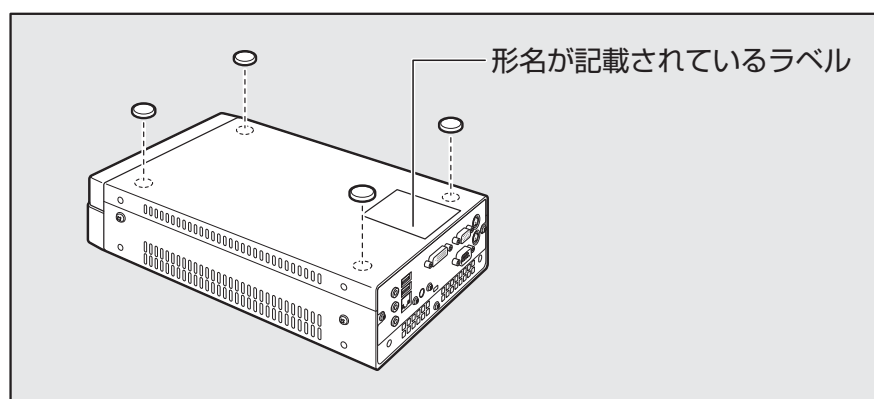
3 はずしたネジを元のネジ穴に取り付ける



4 形名が記載されているラベルのある面を上に向けて本体を置き、図の位置を参考に横置き用ゴム足を貼り付ける

このとき、底面になる面に少しふくらんでいる部分があるので、布など柔らかいものの上に置いてください。

横置き用ゴム足は、四隅の印を目安に貼り付けてください。



お願い

・ 形名が記載されているラベルのある面を上に向けて本体を置いた状態で、過度な荷重をかけないでください。

④ 初めて電源を入れるときは

① 電源を入れる



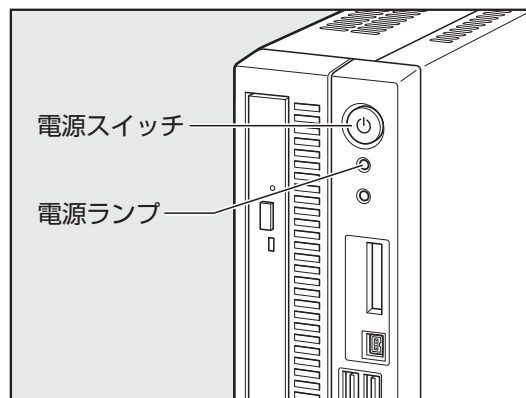
お願い

- ・ 電源を入れる際は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。
システムに障害が起きる原因になります。

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ を押す

電源ランプ  (本体全面の緑色のランプ) が点灯します。本製品は電源ON時、自動的にセルフテストを実行します。



パソコン本体の電源を初めて入れたときは、Windowsを使えるようにするために、「Windows セットアップ」という操作が必要です。

 Windowsのセットアップについて  『セットアップガイド』



メモ

- ・ Windowsのセットアップの画面が表示されるまで、しばらく時間がかかりますが、この間に電源を切らないようにしてください。

一度Windowsのセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐにWindowsを使用することができます。

② ユーザー登録をする

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

● 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

http://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

● [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。



・ インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 スタート画面の【デスクトップ】をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 [東芝お客様登録] アイコン () をダブルクリックする

[お客様登録サービス「Room1048」ご登録のお願い] 画面が表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



・ インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
登録用ホームページ： <http://toshibadirect.jp/room1048/>
商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

2

使い終わりと使いはじめ

本章では、パソコン本体の電源の切りかたと入れかたについて説明します。

1	使い終わったら.....	30
2	電源の入れかた.....	35
3	省電力機能について.....	36

① 使い終わったら

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

① 電源を切る

長時間パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。

間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。



お願い

- ・電源スイッチで電源を切らないでください。作業中に電源スイッチで電源を切ると、故障やデータ消失の原因になります。

なお、システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けると電源が切れます。その際、作成中のデータは消失する可能性があります。

- ・電源を切ったあと、もう一度電源を入れる場合は、5秒以上たってから入れてください。5秒以上経過していない場合は、誤動作することがあります。
- ・アプリケーションが起動しているときは、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してから電源を切ってください。

『各アプリケーションに付属の説明書』

- ・HDDアクセスランプ、ドライブのアクセスランプが消えていることを確認してください。
- ・電源を切ったあと、本体を移動する場合は、30秒以上たってから移動してください。電源切断直後はハードディスクドライブ、ファンなどの駆動部分が完全に停止していません。電源切断直後の移動は機器の故障の原因となります。
- ・周辺機器の取り付け／取りはずし、BIOSセットアップの設定などを行うときは、**[Shift]** キーを押しながら、メニューから「シャットダウン」をクリックしてください。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる



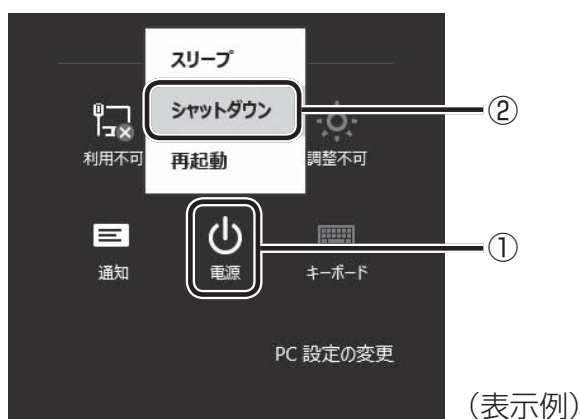
チャームが表示されます。

2 「設定」をクリックする



画面右側に「設定」画面が表示されます。

3 「電源」をクリックし①、表示されたメニューから「シャットダウン」をクリックする②



(表示例)

Windows を終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。

4 ディスプレイなどの、本体に接続している周辺機器の電源を切る

■再起動

Windows を終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。再起動するには、次のように操作してください。

- ① チャームの「設定」をクリックする

画面右側に「設定」画面が表示されます。

- ② 「電源」をクリックし、表示されたメニューから「再起動」をクリックする

② スリープにする

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。

スリープ機能を使うと、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。

スリープには、通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能もあります。作業を中断している間に、停電などによって不意に電源が切断された場合は、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にすると、データが保持されます。

🔧 ハイブリッド スリープ ⇨「本項-スリープ機能を強化する」

なお長時間使用しないときや、本書または付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。また、パソコンの使用を中断するには、「スリープ」のほかに「休止状態」があります。

🔧 スリープ、休止状態 ⇨「本章 3 省電力機能について」



中断する前に

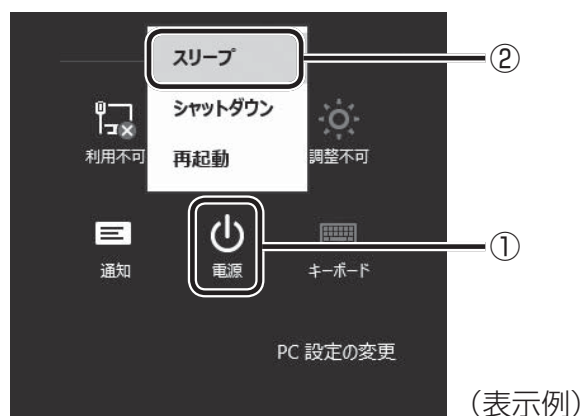
- ・スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- ・スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- ・スリープ中に停電などによって不意に電源が切断された場合、メモリに保存してあったそれまでの作業が失われます。スリープを実行する前に作業中のデータを保存するかハイブリッド スリープを有効にしてください。

中断したときは

- ・スリープ中にメモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
- ・スリープ中や休止状態では、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- ・スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

● スリープの実行方法

- 1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる
チャームが表示されます。
- 2 [設定] をクリックする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- 3 [電源] をクリックし①、表示されたメニューから [スリープ] をクリックする②



スリープ状態になります。

電源スイッチを押すと、中断したときの状態を再開します。

● スリープ機能を強化する

Windows 8には、通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。

パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。

作業を中断している間に、停電などによって不意に電源が切断された場合は、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、ハードディスクから作業内容を復元できます。

ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

- 1 スタート画面の [デスクトップ] をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
- 2 [デスクトップアプリメニュー] アイコン () をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
- 3 [コントロールパネル] をクリックする

4 [システムとセキュリティ] → [電源オプション] をクリックし、選択している電源プランの[プラン設定の変更] をクリックする

[プラン設定の変更] は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの[プラン設定の変更] をクリックしてください。

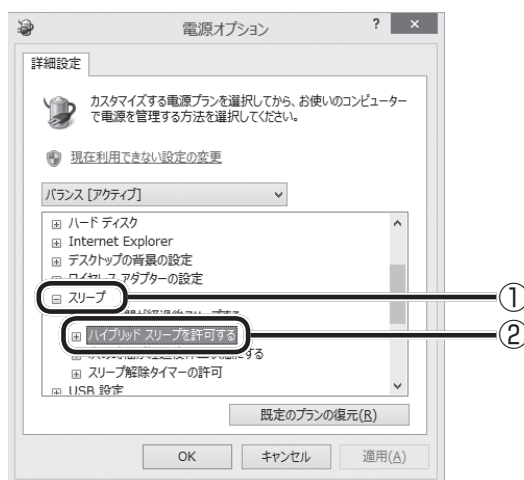
ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。

[プラン設定の編集] 画面が表示されます。

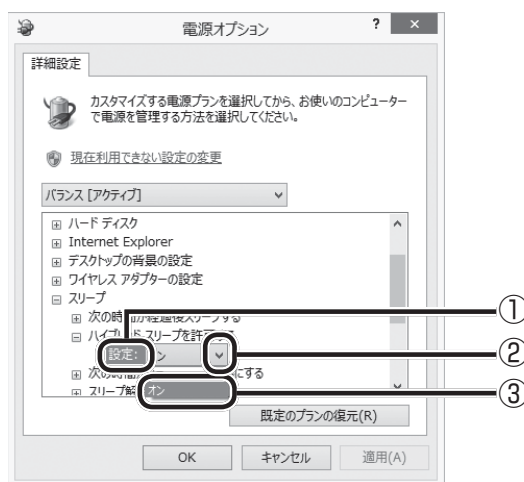
5 [詳細な電源設定の変更] をクリックする

[詳細設定] 画面が表示されます。

6 [スリープ] をダブルクリックし①、表示された項目から [ハイブリッド スリープを許可する] をダブルクリックする②



7 [設定] をクリック① → [v] をクリック② → [オン] をクリックする③



8 [OK] ボタンをクリックする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。

この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

② 電源の入れかた

ここでは、Windowsのセットアップを終えたあと、電源を入れる方法について説明します。



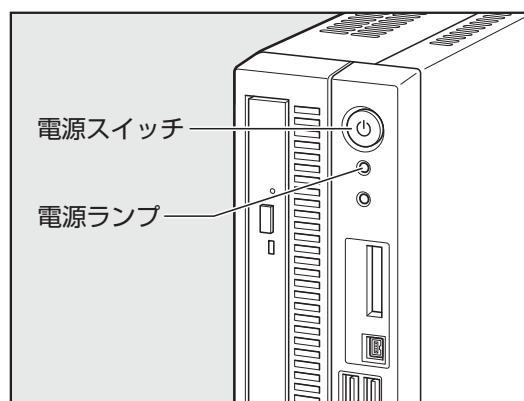
お願い

- ・電源を入れる際は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。
システムに障害が起きる原因になります。

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ を押す

電源ランプ  が点灯します。本製品は電源ON時、自動的にセルフテストを実行します。



メモ

- ・パソコン本体が起動すると、自動的にパソコン内部のテストを行います。これをセルフテストといいます。セルフテストによって、エラーが発見される場合があります。
🔧 セルフテストでのエラーの対処方法について ➡ 「付録 3 エラーメッセージ」
- ・リカバリーDVD-ROMなどの起動可能なメディアをセットしたまま電源を入れると、設定によってはハードディスクドライブからシステムが起動しません。その場合はメディアを取り出してから、もう一度電源を入れてください。

③ 省電力機能について

① 省電力機能について

省電力機能とは、パソコンのシステム、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどを省電力モードにして消費電力を抑制する機能です。

省電力モード中は、次の状態になります。



- ・ 省電力モードでも一定の電力を消費しています。長時間使用しない場合は、一度省電力状態を解除してからWindowsを終了してください。

省電力モード	本体の電源ランプ	システム／アプリケーション
システムがスリープのとき	緑色に点滅 ^{*1}	停止する
システムが休止状態のとき	消灯	停止する
ディスプレイが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない
ハードディスクドライブが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない

* 1 BIOS設定の [ACPI Sleep State] が [S3 only(Suspend to RAM)] に設定されている場合。

Windowsは、省電力機能を備えています。設定されている情報に従って、省電力機能を作動させることができます。ここでは、本製品とWindowsの省電力機能について簡単に紹介します。

② システムの省電力モードについて

本製品にある省電力モードとその動作は次のとおりです。

● スリープ

本製品の消費電力を抑制します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。また、ネットワークに接続していない場合は時間がかかることがあります。

スリープについては、「本章 1 使い終わったら」もあわせてご覧ください。

スリープはBIOSセットアップの [Advanced] メニューの [ACPI Settings] の [ACPI Sleep State] で、次のように設定を切り替えることができます。

- ・ [S1 only(CPU Stop Clock)] ハードディスクドライブ、ディスプレイ、USB対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器などのデバイスの動作を停止します。
- ・ [S3 only(Suspend to RAM)] メモリ以外のほとんどのデバイスの動作を停止します。



- ・ 工場出荷時はBIOSセットアップの [Advanced] メニューの [ACPI Settings] の [ACPI Sleep State] で [S3 only(Suspend to RAM)] に設定されています。[S3 only(Suspend to RAM)] は消費電力を抑えることができますが、接続しているUSB対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器によっては正常にスリープに移行しない、またはスリープから通常モードに復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は、[ACPI Sleep State] を [S1 only(CPU Stop Clock)] に切り替えてください。それでも動作に問題が生じる場合は、省電力機能を使用しない設定に変更してください。

BIOSセットアップについて ➡ 「6章 BIOSセットアップ」

● 休止状態

本製品の消費電力を最小限に抑制します。休止状態に移行する直前の状態をハードディスクに保存します。通常モードへ復帰するとき、休止状態に移行する直前の状態を再現します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。

休止状態に移行させるには、あらかじめ設定が必要です。

● デバイスの動作について

システムが省電力モードに移行すると、デバイスの動作は次のようになります。

ディスプレイ	画面表示が消えます。
ハードディスクドライブ	モーターの回転を停止します。
LAN 接続 (ネットワークへの接続)	切断します。
USB 対応機器	停止します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器	停止します。



・3Dスクリーンセーバーなど、比較的高い負荷でプロセッサを使用するスクリーンセーバーを選択した場合、システムが使用中と判断されるため、「電源オプション」で設定した時間を経過しても省電力モードに移行しない場合があります。

③ 省電力モードへの移行

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

● システムの省電力モード

Windows 8の省電力モードには、スリープと休止状態があります。

● スリープ

- 1 [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- 2 [電源オプション] のカテゴリの [コンピューターがスリープ状態になる時間を変更] をクリックする
- 3 [コンピューターをスリープ状態にする] で時間を選択する
スリープにしない場合は、[適用しない] を選択してください。
- 4 [変更の保存] ボタンをクリックする



・システムをスリープにすると、LAN接続は切断され、接続しているUSB対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムをスリープに移行させることもできます。
操作方法は次のとおりです。

● チャームからの実行

- ① ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる
チャームが表示されます。
- ② [設定] をクリックする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- ③ [電源] をクリックし、表示されたメニューから [スリープ] をクリックする

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスリープに移行することができます。
電源スイッチを4秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

なお、この機能を有効にするには次のように設定されている必要があります。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- ② [電源オプション] のカテゴリの [電源ボタンの動作の変更] をクリックする
- ③ [電源ボタンを押したときの動作] で [スリープ状態] を選択する
- ④ [変更の保存] ボタンをクリックする

● 休止状態

- 1 [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- 2 [電源オプション] のカテゴリの [コンピューターがスリープ状態になる時間を変更] をクリックする
- 3 [詳細な電源設定の変更] をクリックする
- 4 [詳細設定] タブで [スリープ] をダブルクリックし、表示された項目から [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルクリックする
- 5 [設定] をクリックし、  で時間を設定する
休止状態を使用しない場合は、[なし] を選択してください。
- 6 [OK] ボタンをクリックする



メモ

・ システムを休止状態にすると、LAN接続は切断され、接続しているUSB対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムを休止状態に移行させることもできます。
操作方法は次のとおりです。

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行することができます。

電源スイッチを4秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

なお、この機能を有効にするには次のように設定されている必要があります。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- ② [電源オプション] のカテゴリの [電源ボタンの動作の変更] をクリックする
- ③ [電源ボタンを押したときの動作] で [休止状態] を選択する
- ④ [変更の保存] ボタンをクリックする

● ディスプレイの省電力モードの設定

- 1 [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- 2 [電源オプション] のカテゴリの [コンピューターがスリープ状態になる時間を変更] をクリックする
- 3 [ディスプレイの電源を切る] で時間を選択する
省電力モードを使用しない場合は、[適用しない] を選択してください。
- 4 [変更の保存] ボタンをクリックする

● ハードディスクドライブの省電力モードの設定

- 1 [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- 2 [電源オプション] のカテゴリの [コンピューターがスリープ状態になる時間を変更] をクリックする
- 3 [詳細な電源設定の変更] をクリックする
- 4 [詳細設定] タブで [ハードディスク] をダブルクリックし、表示された項目から [次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る] をダブルクリックする
- 5 [設定] をクリックし、  で時間を設定する
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。
- 6 [OK] ボタンをクリックする

4 省電力モードからの復帰

● スリープからの復帰

システムのスリープから復帰するには、電源スイッチを短く押す、またはマウスをクリックしてください。



メモ

・日本語PS/2キーボード（106/109キー）のプロパティまたはHID準拠マウスのプロパティ設定を変更することにより、キー操作またはボタン操作でスリープから復帰の可否を変更できます。各々のデバイスプロパティから、[電源の管理] の [このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする (O)] のチェックボックスを操作してください。

● 休止状態からの復帰

休止状態から復帰するには、電源スイッチを短く押してください。

● ディスプレイの省電力モードからの復帰

ディスプレイの省電力モードから復帰するには、次の操作を行ってください。

- キーボード入力をする
- マウスを動かす

● ハードディスクの省電力モードからの復帰

ハードディスクの省電力モードからは、ハードディスクへアクセスすることで、自動的に復帰します。

3

ハードウェアについて

本章ではパソコン本体の機能と、周辺機器、増設メモリなどを取り付ける方法について説明します。注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	キーボード	42
2	ドライブ	44
3	i.LINK (IEEE1394) 対応機器	52
4	ブリッジメディアスロット	54
5	機器の拡張を行うときは	57
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	59
7	増設メモリ	63

① キーボード

本製品のキーボードは、106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）にWindowsをより便利に使うウィンドウズキー、アプリケーションキーを追加した109Aキーボードです。

F（ファンクション）キー（F1～F12）

各アプリケーションソフトにより、いろいろな機能が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー

操作の取り消しなどに使用します。

Tab（タブ）キー

項目を移動するときなどに使用します。

Space（スペース）キー

空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するとき使用します。

Alt（オルト）キー

ほかのキーと組み合わせて使用します（アプリケーションごとに機能が異なります）。

ウィンドウズキー

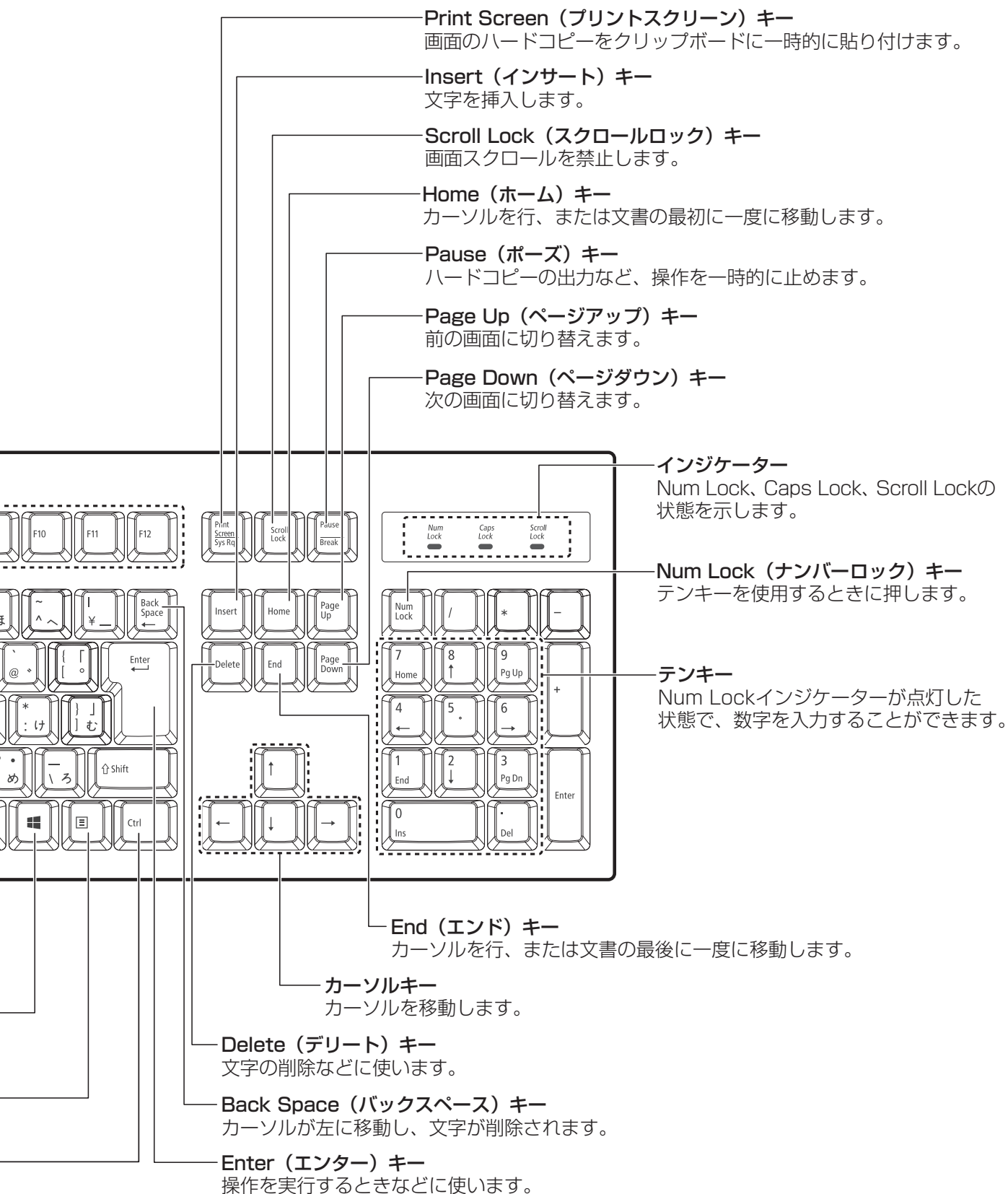
ほかのキーとの組み合わせで、ショートカットとして使用できます。画面を切り替えることもできます。

アプリケーションキー

マウスの右ボタンをクリックすることと同様に動作します。

Ctrl（コントロール）キー

ほかのキーと組み合わせて使用します（アプリケーションごとに機能が異なります）。



② ドライブ

本製品にはDVD-ROMドライブまたはDVDスーパーマルチドライブのいずれかが1台内蔵されています。

内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルにより、異なります。



- ・ドライブを使用しないときは、必ずCD/DVDを取り出しておいてください。
- ・市販のレンズクリーナは使用しないでください。ドライブの故障の原因となります。

● DVD-ROMドライブ

DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

● DVDスーパーマルチドライブ

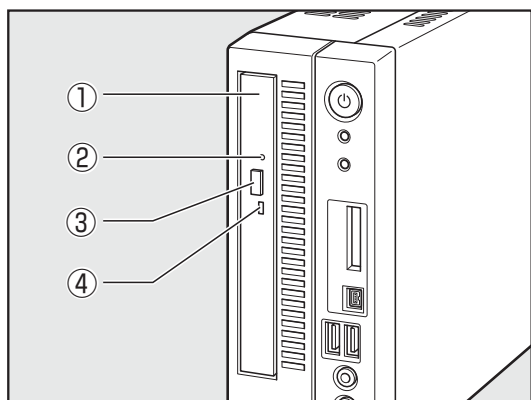
DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R^{*1}、DVD+RW、DVD+R^{*2}、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

*1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL (DVD-R Dual Layer) を含みます。

*2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (DVD+R Double Layer) を含みます。

● 各部の名称と機能

ドライブ部分拡大図（本体正面）



① ディスクトレイ

CD/DVDをセットする部分です。

② イジェクトホール

故障などで電源が入らない場合、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してディスクを強制的に出します。

通常は使用しません。

③ イジェクトボタン

ディスクトレイの出し入れのときに押します。

④ アクセスランプ

CD/DVDへのアクセスが行われているときに、緑色に点灯します。

● 使用できるCD

本製品では12cm、8cmのCDを使用できます。読み出しできるCDは、次の種類です。

- 音楽CD
- フォトCD
- CD-ROM

使用するシステムに適合するISO9660フォーマットのもの

- CDエクストラ
- CD-R
- CD-RW



・ISO9660フォーマットとは、パソコンのシステム（OS）や機種が異なっても共通に利用することができるCD-ROMのフォーマットであり、ISO（国際標準化機構）が1988年に決めました。

DVDスーパーマルチモデルで書き込みできるCDは、次の種類です。

● CD-R

書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-Rの書き込み速度は最大24倍速です。24倍速で書き込むためには24倍速書き込みに対応したCD-Rメディアをご使用ください。

● CD-RW

CD-RWの書き込み速度は使用するメディアによって異なります。マルチスピードCD-RWメディアを使用した場合は最大4倍速です。High Speed CD-RWメディアを使用した場合は最大10倍速です。Ultra Speed CD-RWメディアを使用した場合は、最大24倍速です。Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

● CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

* DVDスーパーマルチモデルのみ

● CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

CD-RW（マルチスピード、High Speed）：三菱化学メディア（株）

CD-RW（Ultra Speed）：三菱化学メディア（株）

CD-R：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

● CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。

● CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。

● 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。

● ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

● ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。

データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

● 使用できるDVD

本製品では、次の種類のDVDが読み出しできます。

また、DVD-ROMモデルで読み出すためには、ディスクがクローズされている（データが書き込めない状態になっている）必要があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-RW
- DVD-R
- DVD-R DL
- DVD+RW
- DVD+R
- DVD+R DL
- DVD-RAM

DVDスーパーマルチモデルで書き込みできるDVDは、次の種類です。



お願い

・ 本製品のDVDスーパーマルチドライブでは、次のメディアが使用できます。

- ・ 書き込み8倍速までのDVD-R／DVD+Rメディア
 - ・ 書き込み6倍速までのDVD-R DL／DVD+R DLメディア
 - ・ 書き換え6倍速までのDVD-RWメディア
 - ・ 書き換え8倍速までのDVD+RWメディア
 - ・ 書き換え5倍速までのDVD-RAMメディア
- これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

● DVD-R、DVD-R DL

書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。

DVD-R DLとは、DVD-Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。既存の1層のDVD-Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。たとえば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD-Rメディアが約2時間分ならDVD-R DLメディアは約3.6時間分の記録が可能になります。ただし、Format 1対応のため追記ができません。1層のDVD-Rメディアに収まる容量のデータを保存する場合は、追記できるDVD-Rを使用することをおすすめします。

● DVD-RW

DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1または1.2規格に準拠したメディアを使用してください。

● DVD+R、DVD+R DL

DVD+R DLとは、DVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。

既存の1層のDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。たとえば、MPEG2の5Mbpsの映像データで、1層のDVD+Rメディアが約2時間分ならDVD+R DLメディアは約3.6時間分の記録が可能になります。

● DVD+RW

● DVD-RAM

DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、2.1または2.2規格に準拠したメディアを使用してください。

DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品で利用できるDVD-RAMは次のとおりです。カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出しする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：利用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類 (4.7GB/9.4GB)	本製品の対応
カートリッジなし	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)	○

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

* DVDスーパーマルチモデルのみ

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R に書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

DVD-RAM : パナソニック (株)、日立マクセル (株)

DVD-RW : 日本ビクター (株)

DVD-R : 太陽誘電 (株)

DVD-R DL : 三菱化学メディア (株)

DVD+RW : 三菱化学メディア (株)

DVD+R : 太陽誘電 (株)

DVD+R DL : 三菱化学メディア (株)

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにデータなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。

- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。



メモ

- ・市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みを行うことができません。一般用メディア（for General）を使用してください。
- ・市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- ・作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディアを再生するときは、DVD+R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。DVD-R DLメディアを再生するときは、DVD-R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

● DVD-RAMを使うときは

ここでは、DVDスーパーマルチモデルでDVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。



お願い

- ・フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

● ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」「UDF1.50」「UDF1.02」です。

● フォーマット方法

フォーマットは、Windows上で実行できます。

フォーマット方法については、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

● CD/DVDのセットと取り出し



お願い

- ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。CD/DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。
- ・CD/DVDのセットと取り出しは、電源ON時に行ってください。電源OFF時に行っても、ディスクトレイの出し入れはできません。
故障などで電源が入らない場合は、ドライブのイジェクトホールを先の細い、丈夫なもの（たとえばクリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。
- ・本体を横置きに設置している場合は、ディスクトレイの前にキーボードなどの障害物があると、ディスクトレイがイジェクトされないことがあります。ディスクトレイの前に障害物を置かないようにしてください。
- ・CD/DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・ドライブを使用しないときは、必ずCD/DVDを取り出しておいてください。
- ・外側を切り欠いたCD/DVDなど正常な円形ではないCD/DVDや、変形したCD/DVD、ラベルを貼ったCD/DVDは使用しないでください。異常振動の発生や故障の原因となります。



メモ

- ・CD/DVDの種類によっては、取り出すときWindows 8が自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
よく確認してからCD/DVDをセットしてください。
このWindows 8の機能を無効にするには、次のように操作してください。
- ① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
 - ② タスクバーの [エクスプローラー] アイコン () をクリックする
「エクスプローラー」が起動します。
 - ③ [コンピューター] をクリックする
 - ④ ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
ドライブのプロパティ画面が表示されます。
 - ⑤ [書き込み] タブで [共通の設定] ボタンをクリックする
 - ⑥ [共通の設定] 画面で [シングル セッション ディスクを取り出すとき] と [マルチ セッション ディスクを取り出すとき] のチェックをはずし、[OK] ボタンをクリックする

● CD/DVDのセット

1 ドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが出てきます。



お願い

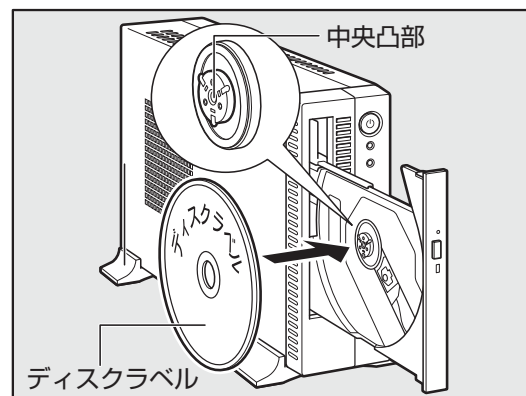
- ・イジェクトボタンは、アクセスランプが消灯している状態で押してください。

2 ディスクトレイを引き出す

CD/DVDをセットする面がすべて出るまで引き出します。

3 CD/DVD ディスクラベルを左側（横置きの場合は上側）にして、穴の部分をディスクトレイ中央凸部に合わせ、セットする

CD/DVD をセットするときは、ディスクトレイを強く押しすぎないでください。



4 ディスクトレイを押し戻す

ディスクトレイが格納されます。

● CD/DVD の取り出し

1 ドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが出てきます。



お願い

・ イジェクトボタンは、アクセスランプが消灯している状態で押してください。

2 ディスクトレイを引き出す

CD/DVD をセットする面がすべて出るまで引き出します。

3 CD/DVD の両端をそっと持ち、取り出す

取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

4 ディスクトレイを押し戻す

ディスクトレイが格納されます。

● ディスクトレイが出てこない場合

⚠ 注意

・クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する
先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

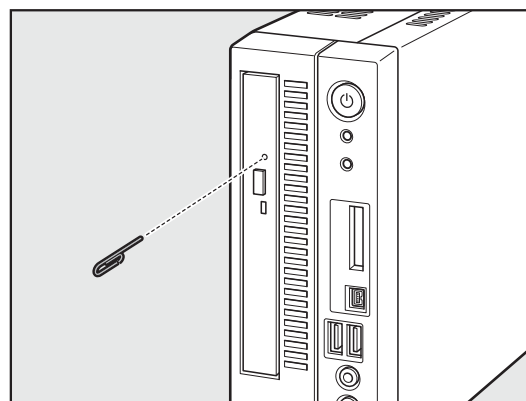
電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押したあとすぐにディスクトレイは出てきません。

アクセスランプの点滅が終了したことを確認してからイジェクトボタンを押してください。

- ・電源を入れた直後
- ・ディスクトレイを格納した直後
- ・再起動した直後
- ・スリープ状態のとき



* イジェクトボタン、イジェクトホール、アクセスランプの位置は「本節 - 各部の名称と機能」をご覧ください。

③ i.LINK (IEEE1394) 対応機器

本製品では、i.LINK (IEEE1394) コネクタ（以降、i.LINK コネクタとよびます）にi.LINK (IEEE1394) 対応機器（以降、i.LINK 対応機器とよびます）が接続できます。



お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバーの対応が必要です。
- ・ すべてのi.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべてのi.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 3m以内の長さのケーブルをご使用ください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スリープまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしやパソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- ・ i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スリープまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

● i.LINK 対応機器のご使用について

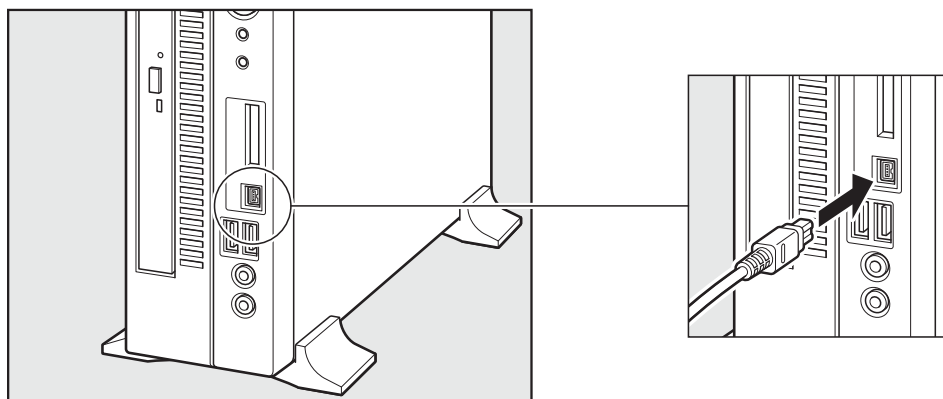
i.LINK 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万が一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときにほかのi.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。

● 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINK コネクタに差し込む

コネクタの向きを確認して差し込んでください。



2 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK 対応機器に差し込む

● 取りはずし

- 1 デスクトップ画面の通知領域で「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン（ または ）をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないi.LINK 対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順4に進んでください。

- 2 取りはずすi.LINK 対応機器を選択する
- 3 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする
- 4 パソコン本体とi.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを取りはずす

パソコン本体からケーブルを取りはずすときは、i.LINK 対応機器以外の機器のケーブルに気をつけてください。

 i.LINK 対応機器からのケーブルの取りはずしについて

⇒ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

4 ブリッジメディアスロット

次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

● SD メモリカード

● メモリースティック

● xD-ピクチャーカード

● SD メモリカードについて

使用できるSDメモリカードの種類は次のとおりです。

● SD メモリカード

● SDHC メモリカード

● SDXC メモリカード

● miniSD メモリカード／miniSDHC メモリカード／microSD メモリカード／microSDHC メモリカード／microSDXC メモリカード

専用のSDメモリカードサイズのアダプターを取り付けてから、使用してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、これらをまとめて「SDメモリカード」と呼びます。



お願い

- ・ 本製品は、次の容量までのSDメモリカードを使用できます。
 - ・ SDメモリカード : 2GBまで
 - ・ SDHCメモリカード : 32GBまで
 - ・ SDXCメモリカード : 64GBまで
- ・ すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべてのSDメモリカードの動作は保証できません。
- ・ SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- ・ SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- ・ 本製品ではSDIO規格をサポートしていません。本書に記載しているSDメモリカード以外のSDカードをブリッジメディアスロットに挿入しないでください。
- ・ あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

● SDメモリカードのフォーマット

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書』またはヘルプを確認してください。



お願い

- ・ Windows上（[コンピューター] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- ・ 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

● メモリースティックについて

使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック／メモリースティック PRO
- メモリースティック デュオ／メモリースティック PRO デュオ
専用のメモリースティック デュオ アダプターを取り付けてから、使用してください。
- メモリースティック マイクロ
専用のメモリースティック マイクロ アダプターを取り付けてから、使用してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、これらをまとめて「メモリースティック」と呼びます。



お願い

- ・ 本製品は、著作権保護技術 MagicGate には対応していません。著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- ・ 本製品は、次の容量までのメモリースティックを使用できます。
 - ・ メモリースティック : 256MB まで
 - ・ メモリースティック PRO : 32GB まで
- ・ すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- ・ メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

● メモリースティックのフォーマット

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書』またはヘルプを確認してください。



お願い

- ・ Windows 上（[コンピューター] 画面）でメモリースティックのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- ・ 再フォーマットを行うと、そのメモリースティックに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したメモリースティックを再フォーマットする場合は注意してください。

● xD-ピクチャーカードについて

本製品では、xD-ピクチャーカードを使用できます。



お願い

- ・ 本製品は、2GB までの xD-ピクチャーカードを使用できます。
- ・ すべての xD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがってすべての xD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- ・ xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては、『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

● xD-ピクチャーカードのフォーマット

新品のxD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書』またはヘルプを確認してください。



お願い

- ・ Windows 上（[コンピューター] 画面）で xD-ピクチャーカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- ・ 再フォーマットを行うと、その xD-ピクチャーカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用した xD-ピクチャーカードを再フォーマットする場合は注意してください。

● 記録メディアのセットと取り出し



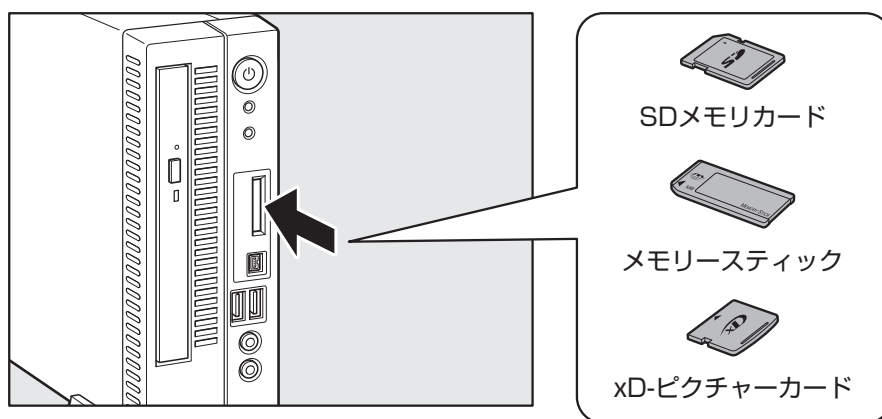
お願い

- ・ メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿入されていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアのデータが壊れるおそれがあります。
- ・ スリープ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。

● メディアのセット

1 メディアの表裏を確認し、表を左側（横置きの場合は上側）にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



● メディアの取り出し

1 デスクトップ画面の通知領域で【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン（ または) をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 取りはずすメディアを選択する

3 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

4 メディアを押す

メディアが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

5 機器の拡張を行うときは

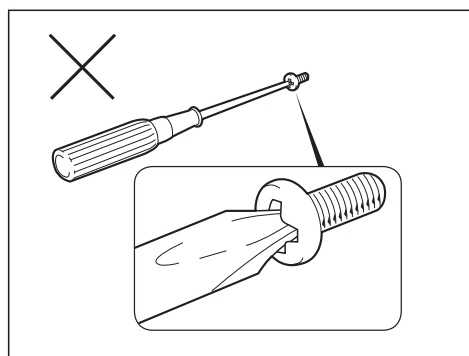
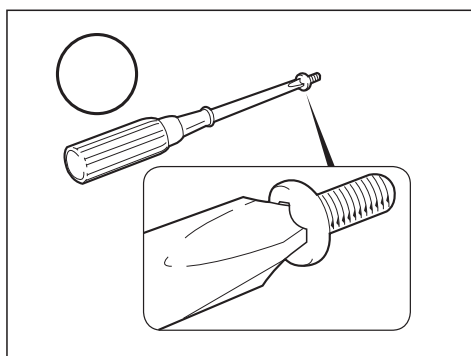
システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のあるかた（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われたかた）を対象としております。システム拡張の経験のないかた、難しいと思われるかたは、お買い上げの販売店、または『保守サービスのご案内』をご覧ください。東芝指定のサービス会社にご相談ください（作業をご依頼の場合は有料で行います）。

● 作業前の注意事項

⚠ 注意

- ・ 作業を始める前に、必ずパソコン本体の電源を切り、電源ケーブルなどのすべてのケーブルを取りはずす
守らないと、感電・けがのおそれがあります。
- ・ 電源を切った直後に機器の拡張を行わない
電源を切った直後は内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから本体カバーを取りはずしてください。
- ・ 作業上必要な場所以外には手を触れない
内部には高電圧部分があるので、感電のおそれがあります。
- ・ 作業用手袋を着用する
本体内部や回路基板などには鋭利な部分があり、けがのおそれがあります。

- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行ってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行ってください。
- 作業は指示された手順で行ってください。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 湿気やほこりが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行ってください。
- 温度範囲は10～35℃、湿度範囲は20～80%ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- コネクタの接続、本体カバーの取りはずし／取り付け、増設メモリの取り付けなどで、ドライバーを使用する場合は、必ずネジに合ったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバーは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。

- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 電源コードの接続は、①ACアダプターへの接続、②プラグの電源コンセントへの接続の順に行ってください。取りはずす場合は、①プラグ、②ACアダプターの順に行ってください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧ください。東芝指定のサービス会社、またはお買い上げの販売店にご相談ください。

● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ +（プラス）ドライバー
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

🔧 設定について ➡ 「6章 BIOS セットアップ」、『各オプションに付属の説明書』

6 本体カバーの取りはずし／取り付け

⚠ 注意

- ・電源を切った直後に機器の拡張を行わない
電源を切った直後は内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから本体カバーを取りはずしてください。
- ・作業用手袋を着用する
本体内部や回路基板などには鋭利な部分があり、けがのおそれがあります。



お願い

- ・オプション装着などのほかは、カバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーを取りはずした状態で電源を入れないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部にあるため、本体カバーを取りはずす必要があります。

先に本体カバーの取りはずし／取り付けかたをまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

3 章

ハードウェアオプション

● 本体カバーの取りはずし

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での作業前の注意事項を確認する
- 2 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックしてパソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、本体に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

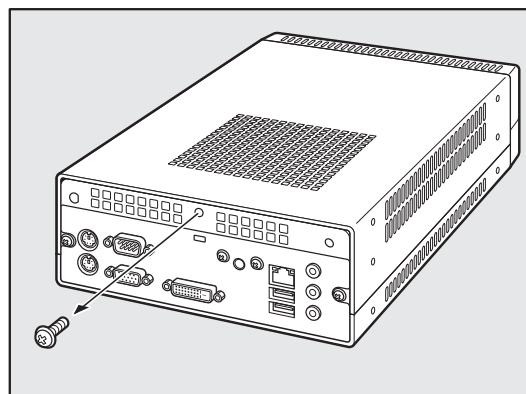


お願い

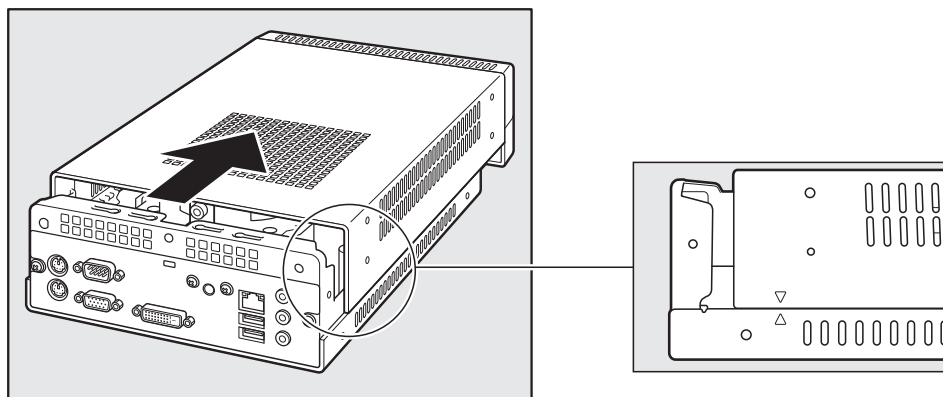
- ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体を横置きにして台座固定用ネジをはずし、台座を取りはずす
🔧 台座の取りはずしかたについて ➡ 「1 章 3-6 横置きで使用する場合」
- 7 本体背面のネジ1本をはずす

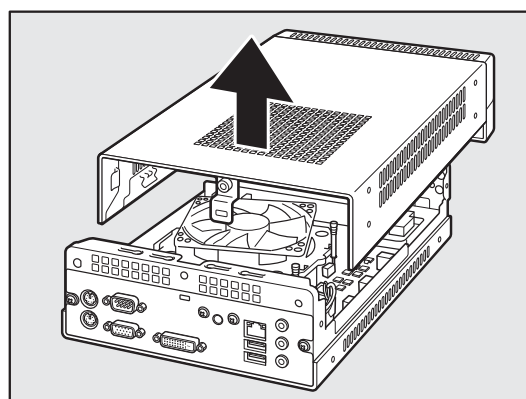
本体を図のように置いてからネジをはずしてください。



8 本体カバーを本体側面の目印までずらす



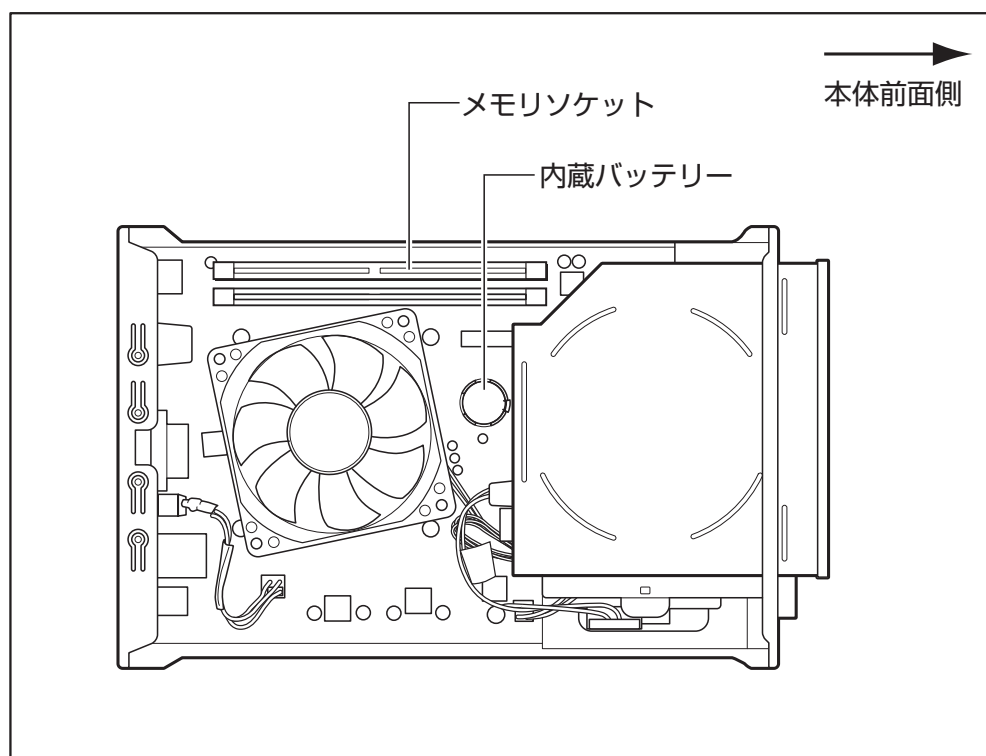
9 本体カバーをまっすぐ上に持ち上げて取りはずす



注意

- ・カバーの取り扱いはていねいに行う
カバーは重量があり、落としたりぶついたりするとけがのおそれがあります。

● 本体カバーを取りはずしたところ



メモリソケット、内蔵バッテリーがユーザー作業エリアです。

🔧 メモリの増設について ➡ 「本章 7 増設メモリ」

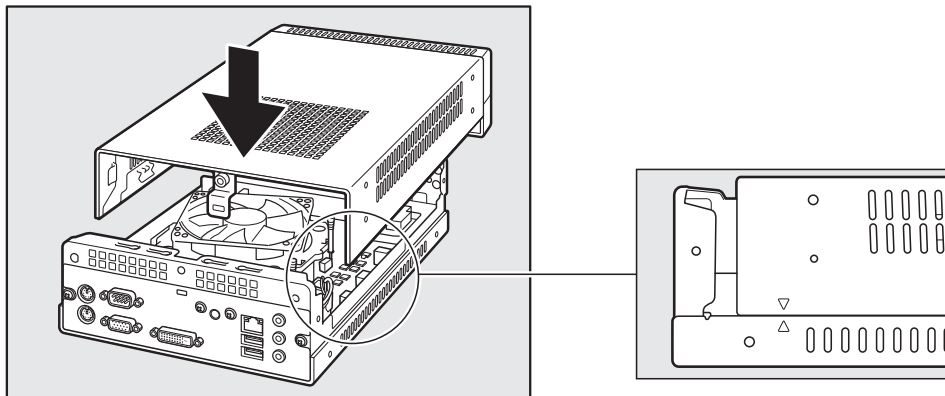
🔧 内蔵バッテリーの交換について ➡ 「4章 2 内蔵バッテリーの交換」

⚠ 注意

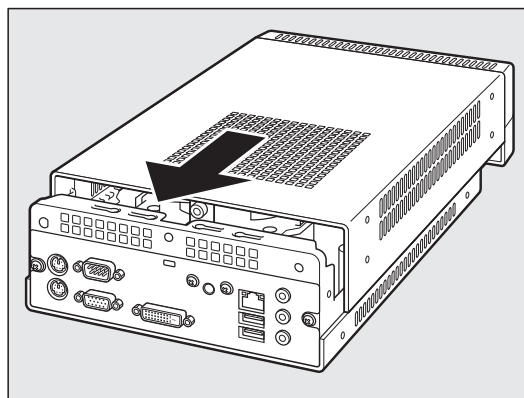
- ・ユーザー作業エリア以外は分解しない
内部には高電圧部分があり感電のおそれがあります。
- ・ユーザー作業エリア以外は触れない
本体内部には鋭利な部分があり、けがのおそれがあります。

● 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での作業前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体側面の目印に合わせてのせる

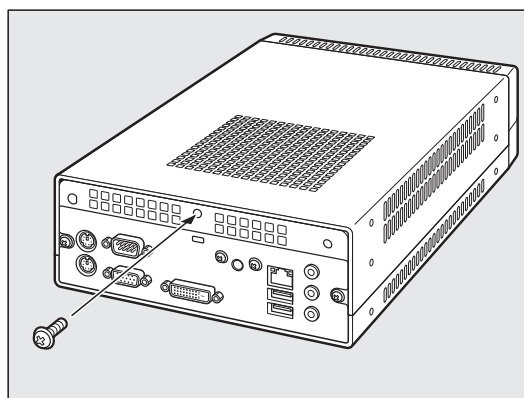


- 4 本体カバーを背面方向にスライドさせる



・ ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 ネジ1本で固定する



- 6 台座を取り付け、台座固定用ネジで固定する

7 増設メモリ

本製品には、メモリが2枚搭載されているモデルと、1枚搭載されているモデルがあります。メモリが1枚搭載されているモデルの場合は、増設メモリを1枚、取り付けることができます。



お願い

- ・必ず『増設メモリに付属の説明書』をお読みになったうえで作業を行ってください。
- ・増設メモリの取り付けが難しいと思われるかたは、保守サービスでの取り付けをおすすめします。『保守サービスのご案内』をご覧ください。東芝指定のサービス会社に作業をご依頼ください（有料です）。
- ・メモリを増設するときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。

本製品に取り付けることができる増設メモリは、次のものです。

2GB DDR3 SDRAM DIMM	PC3-12800 (DDR3-1600) 規格／ECCなし
4GB DDR3 SDRAM DIMM	

3章

ハードウェア

増設メモリの取り付け

増設メモリの取り付け方法について説明します。



お願い

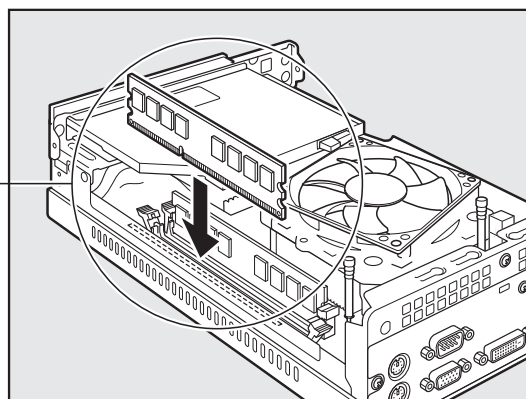
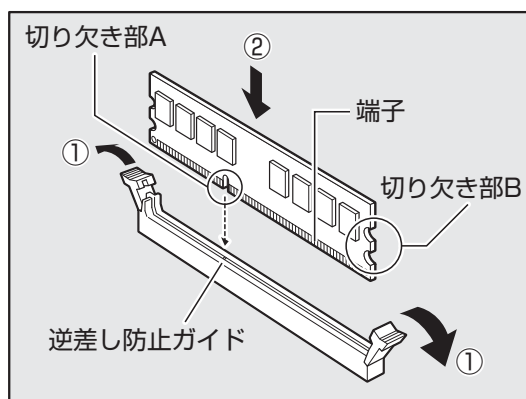
- ・増設メモリは、静電気にたいへん弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での作業前の注意事項を確認する
- 2 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックしてパソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、本体に接続されているすべてのケーブルを取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす

🔧 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

7 メモリソケットに増設メモリを挿入する

メモリソケットの左右のフックを矢印の方向に倒し①、増設メモリの切り欠き部Aを、メモリソケットの逆差し防止ガイドに合わせ、挿入してください②。

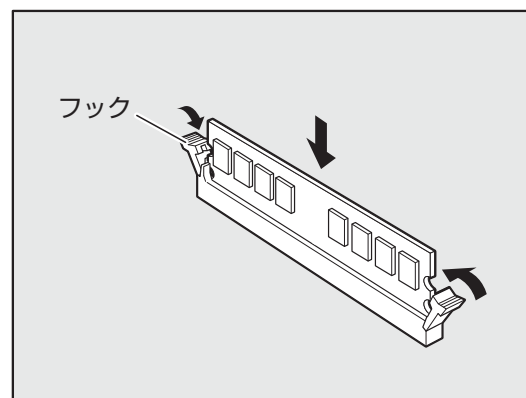


お願い

- ・ 増設メモリの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリやメモリソケットを破損する原因になります。
- ・ 増設メモリの端子部分に手を触れると、接触不良による故障・誤動作の原因となります。増設メモリの端子部分には手を触れないようにしてください。

8 左右のフックが垂直に立つまで、増設メモリを真上から押し込む

左右のフックが垂直に立ち、増設メモリが固定されていることを確認してください。



お願い

- ・ 増設メモリが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリやメモリソケットを破損する原因になります。
- ・ 内部のケーブルを増設メモリとメモリソケットではさみ込まないようにしてください。
- ・ メモリの接点（金メッキ部）がきちんとメモリソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

9 本体カバーを取り付ける

🔧 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリの取り付けは完了です。

増設したメモリが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

● メモリ容量の確認

Windows を起動し、次のようにメモリ容量の確認を行います。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[システムとセキュリティ] をクリックする
- 2 [システム] をクリックする
- 3 [システム] で [実装メモリ (RAM)] の数値を確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリの取り付けを行ってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない

● 増設メモリの取りはずし

増設メモリの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

🔧 「本節- 増設メモリの取り付け」



お願い

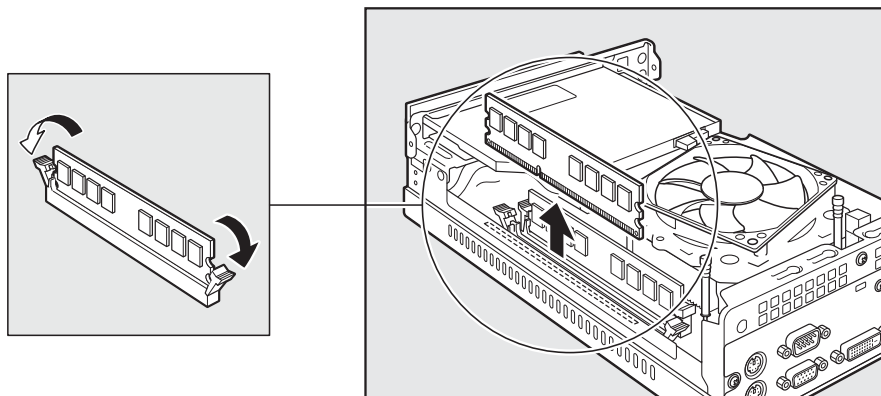
- ・増設メモリは、静電気にたいへん弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を逃がすことができます。
- ・増設メモリの端子部分に手を触れると、接触不良による故障・誤動作の原因となります。増設メモリの端子部分には手を触れないようにしてください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での作業前の注意事項を確認する
- 2 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら [シャットダウン] をクリックしてパソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、本体に接続されているすべてのケーブルを取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす

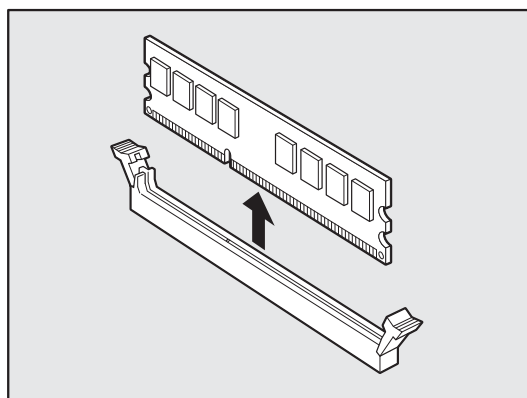
🔧 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

7 メモリソケットの左右のフックを外側に倒す

増設メモリが少し出てきます。



8 増設メモリを真上に引き抜く



9 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

メモリを取りはずしたら、正しく容量が認識されているか、パソコン本体を起動して確認してください。

☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 - メモリ容量の確認」

4

パソコンの取り扱い

日常のパソコンの取り扱いや消耗品について説明しています。

- 1** 日常の取り扱いについて 68
- 2** 内蔵バッテリーの交換 70



① 日常の取り扱いについて

● パソコン本体の取り扱い

携帯電話、無線機など電波を発生する機器を近くで使用した場合、動作に影響を与えることがあります。

その場合は、電波を発生する機器を本体から離してご使用ください。

● ハードディスクドライブの取り扱い

- パソコン本体に過度の振動や衝撃を加えないでください。ハードディスクドライブが動作中（HDDアクセスランプ点灯時）は、特にご注意ください。
- パソコン本体の電源を切断したあともハードディスクドライブ内部のディスクはしばらく回転しています。電源切断後、約30秒間はパソコン本体を移動させたり、振動を加えたりしないようご注意ください。

● 連続運転について

長時間の（24時間を超えるような）連続運転をしないでください。

パソコン本体を使わないときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。

長時間使用しない場合は、電源コードを電源コンセントから抜いてください。

● 日常のお手入れと保管・運搬

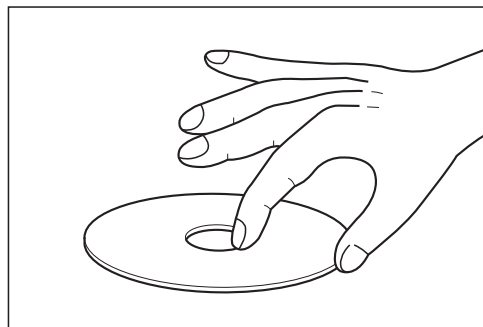
- 本体の汚れは、やわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、水を含ませた布で軽くふき取ってください。
- ベンジンやシンナー、その他の薬品類を使うと変形または変色することがあります。また殺虫剤などをかけないようにしてください。
- 購入時の箱を保管しておくとう輸送などに使用でき便利です。
- 移動時に落とす、ぶつけるなどの強いショックを与えないようにしてください。誤動作したり、故障することがあります。
- DVD-ROMドライブまたはDVDスーパーマルチドライブは、市販のレンズクリーナーを使用しないでください。
- 電源コードのプラグを長期間電源コンセントに接続したままにすると、プラグや電源コンセントにほこりがたまるがあります。定期的にはこりをふき取ってください。
- キーボードのキーの下やすきまに入ったほこりやゴミなどは、掃除機などで吸い出してください。
- マウスを長時間使用していると、ほこりなどが付着し正常なマウスの動作を妨げ、動作不良の原因となることがあります。

● CD/DVDの取り扱い

CD/DVDの内容は故障の原因にかかわらず保証いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD/DVDを折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD/DVDを読み込むことができなくなります。

- CD/DVDを直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD/DVDの上に重いものを置かないでください。
- CD/DVDは専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD/DVDを持つときは、外側の溝か、中央の穴の
ところを持つようにしてください。
データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。



- CD/DVDのデータ記憶面/レーベル面ともにラベルを貼らないでください。
- CD/DVDのデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD/DVDのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
- CD/DVDが汚れたりほこりをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。
ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにし、乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

● 妨害電波・電圧について

本装置はVCCI（情報処理装置等電波障害自主規制協議会）基準に基づくクラスA情報技術装置です。テレビ、ラジオへの影響がある場合は次のことを試みてください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える。
- テレビ、ラジオに対する本装置の方向を変える。
- テレビ、ラジオから離す。
- テレビ、ラジオを接続している電源コンセントとは別の電源コンセントを使う。
- 受信機に屋外アンテナを使う。
- 平行フィーダーを同軸ケーブルに替える。
- 電源コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れてみる。

以上のような対策を行ってもまったく効果がない場合は、東芝指定のサービス会社へご相談ください。

VCCIマークのついていない周辺機器を接続すると、テレビ、ラジオなどに影響が出ることがありますのでご注意ください。

● 修理・サービスについて

保証期間中および保証期間後の保守サービスについては、『保守サービスのご案内』をご覧ください。
うえ、東芝指定のサービス会社またはお買い上げの販売店にご相談ください。

② 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約3年です（使用環境や保管状態により、3年に満たない場合があります）。

電源コードの抜き差しなどを行ったあとの電源投入時に次のメッセージが表示される場合、内蔵バッテリーが寿命に達しているおそれがあります。内蔵バッテリーの交換を行ってください。

CMOS Checksum Bad, BIOS settings have been re-initialized.

Press F1 to resume

Press DEL to enter setup



お願い

- ・電源コードの抜き差し（ブレーカーやスイッチつき電源タップなどによるAC電源切断を含む）を行っていないにもかかわらず上記のエラーが発生する場合や、内蔵バッテリー交換後（交換後の最初の起動時を除く）も繰り返し発生する場合は、本体が故障しているおそれがあります。お買い上げの販売店、または『保守サービスのご案内』をご覧ください。東芝指定のサービス会社にご連絡ください。
- ・内蔵バッテリーを取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、内蔵バッテリーを交換したあとで設定し直してください。
☞ 「6章 BIOS セットアップ」
- ・本製品に使用できる内蔵バッテリーはCR2032リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。
- ・内蔵バッテリーを廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

⚠ 注意

・バッテリーを取り扱うときは次のことを守る

- ・充電、電極除去、分解をしない
- ・加熱、焼却をしない
- ・水にぬらさない
- ・乳幼児が飲み込んだりしないよう、乳幼児の手が届かないところに置く
- ・電池の内部の液がもれたときは、液に触れない

取り扱いを誤ると、発熱・破裂・発火・窒息・中毒・やけどなどのおそれがあります。

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「3章 5 機器の拡張を行うときは」での作業前の注意事項を確認し、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）を控えておく
☞ BIOS セットアップについて ☞ 「6章 BIOS セットアップ」
- 2 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックしてパソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、本体に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす

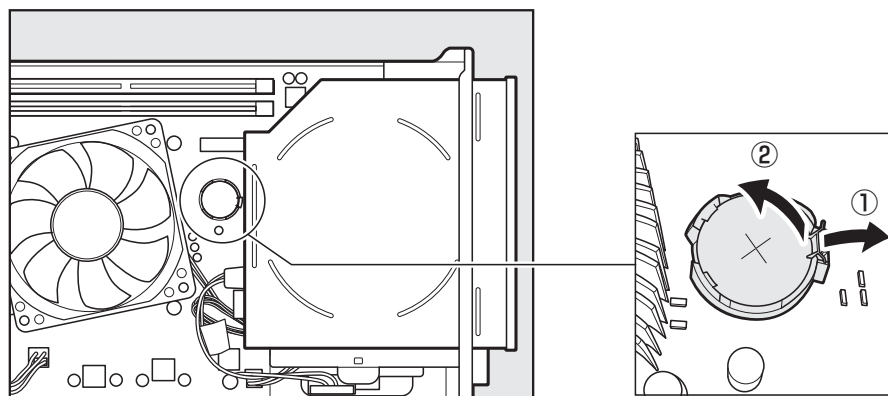
6 本体カバーを取りはずす

🔧 「3章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

7 バッテリーの位置を確認し、フック（電極）を押す①

バッテリーが少し浮き上がります②。

フック（電極）を押しにくいときは、マイナスドライバーを引っかけてバッテリーを取りはずしてください。



8 新しいバッテリーの（+）側を上にして取り付ける



お願い

・ バッテリーの極性（+、-）を間違えないように取り付けてください。
+側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

9 本体カバーを取り付ける

🔧 「3章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

10 手順4で取りはずしたケーブルを取り付け、周辺機器の電源を入れる

11 BIOS セットアップを起動し、控えておいたシステム構成情報（BIOS セットアップでの設定）を再設定する

🔧 BIOS セットアップについて ➡ 「6章 BIOS セットアップ」

5

困ったときは

本章では、困ったときの対処方法を説明します。
操作中、うまく動作しないときにお読みください。

1	困ったときのQ&A.....	74
----------	----------------	----



① 困ったときのQ&A

Q 本体の電源が入らない	75
Q エラーメッセージが表示される	75
Q 次のようなエラーメッセージが表示された	75
Q 画面に何も映らない	75
Q 画面の表示が乱れる、あるいは 画面のサイズや表示位置などが異常である	76
Q キーボードのキーを押しても希望の文字が入力されない	76
Q マウスの操作ができない	76
Q アプリケーションソフトが使えない	76
Q ハードディスクドライブが使えない	77
Q ドライブにアクセスできない	77
Q CD/DVD が取り出せない	77
Q USB 対応機器が使えない	77
Q i.LINK (IEEE1394) 対応機器が使えない	78
Q SD メモリカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードが使えない	78
Q SD メモリカード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードに 書き込み（データ保存）ができない	78
Q 音楽用CDやWAVファイルを再生しても、音が出ない	79
Q 本体に接続したプリンターが動作しない	79
Q うまく印刷できない	79
Q テレビ、ラジオの調子がおかしい	80
Q 省電力機能が正常に動作しない	80
Q 誤ってTPMを初期化してしまった	80
Q TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい	81
Q 異常なおいや過熱に気がついた	81
Q 操作できない原因がどうしてもわからない場合	81

Q 本体の電源が入らない

|| A 次のいずれかの対処を行ってください。

- 電源コードとACアダプターを正しく接続してください。
- 電源の通じている電源コンセントに差ししてください。
- パソコン本体とディスプレイの電源を切り、いったん電源プラグを電源コンセントから抜いて、しばらくしてから電源プラグを電源コンセントに差ししてください。

Q エラーメッセージが表示される

|| A 「付録 3 エラーメッセージ」をご覧ください。メッセージに対応した処置を行ってください。
また、アプリケーションソフト使用時にエラーメッセージが表示される場合は、『アプリケーションソフトに付属の説明書』をお読みください。

Q 次のようなエラーメッセージが表示された

CMOS Checksum Bad, BIOS settings have been re-initialized.
Press F1 to resume
Press DEL to enter setup

|| A 内蔵バッテリーを交換してください。

🔧 バッテリーの交換方法 ⇨ 「4章2 内蔵バッテリーの交換」

バッテリー交換後、BIOS セットアップを起動し、設定項目および日付を設定し直してください。

Q 画面に何も映らない

|| A 次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体およびディスプレイの電源が入っているか、確認してください。
- ディスプレイ用信号ケーブルは、固定用ネジにゆるみがないように正しく接続してください。
- 電源をいったん切ってから、ディスプレイの電源コードを電源コンセントに差し込んでください。
- 接続されているUSB 対応機器によっては、USB 対応機器の電源を入れたあと、パソコン本体の電源を入れると、パソコン本体が起動しない場合があります。パソコン本体の電源を入れてからUSB 対応機器の電源を入れてください。
- 省電力機能が働いている場合があります。マウスをクリックしたり、電源スイッチを押してください。

Q 画面の表示が乱れる、あるいは画面のサイズや表示位置などが異常である

|| A → ディスプレイの輝度、コントラストなどの調整および、各調整スイッチで、正しく調整してください。

また、ご使用のディスプレイの仕様に合った解像度、リフレッシュレートに設定してください。ディスプレイの仕様に合った解像度、リフレッシュレートに設定しても正しく表示が行えない場合は、ディスプレイドライバーの再インストールを行ってください。再インストール方法については、スタート画面のタイルのない部分で右クリック→[すべてのアプリ] をクリック→[アプリケーションの再インストール] をクリックし、表示される画面をご覧ください。

Q キーボードのキーを押しても希望の文字が入力されない

|| A → 次のいずれかの対処を行ってください。

- キーボードの文字キーは、文字ロックの状態によって、入力される文字が異なります。お使いの『日本語入力システムに付属の説明書』を参照して、文字ロックを希望の状態にしてください。
- 半角の「～」（チルダ）が入力できない場合は、Shift + ～ キーを押してください。
- キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」（カーソル）が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字を入力できます。表示されていないときは、入力欄をクリックしてください。
- キーを押しても文字が表示されない場合は、キーボードケーブルのプラグをマウスコネクタに接続している可能性があります。キーボードケーブルのプラグをキーボードコネクタに接続してください。

🔧 キーボードの接続 ➡ 「1 章 3-4 キーボードの接続」

Q マウスの操作ができない

|| A → マウスのケーブルがパソコン本体のUSB コネクタに正しく接続されているかどうか確認してください。

🔧 マウスの接続 ➡ 「1 章 3-3 マウスの接続」

Q アプリケーションソフトが使えない

|| A → システムに対応していないアプリケーションソフトは使えません。

お使いのシステムに対応しているアプリケーションソフトをお買い求めください。また、アプリケーションソフトが思うように動かない場合は、『アプリケーションソフトに付属の説明書』を読んで、指示があればシステム構成を変更してください。

Q ハードディスクドライブが使えない

- || A → データの読み出し／書き込みができない場合は、故障しているおそれがあります。
お使いの機種を確認後、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、東芝指定のサービス会社へご連絡ください。

Q ドライブにアクセスできない

- || A → 次のいずれかの対処を行ってください。
- ドライブのディスクトレイがきちんと閉まっているか確認し、ディスクトレイに異物がはさまっていたら、取り除いてください。
 - ドライブのディスクトレイを引き出し、ディスクラベルを左（本体が横置きの場合は上）にして、CD／DVDをセットし直してください。
 - CD／DVDが汚れている場合は、乾燥した清潔な布でふいてください。それでも汚れが落ちなければ、水か中性洗剤で湿らせた布で、ふき取ってください。
 - ドライブが対応しているフォーマットのCD／DVDをセットしているか確認してください。

Q CD／DVDが取り出せない

- || A → 電源を入れ、ドライブのイジェクトボタンを押してCD／DVDを取り出してください。
☞ 「3章 2- CD／DVDの取り出し」、「3章 2- ディスクトレイが出てこない場合」

Q USB対応機器が使えない

- || A → ケーブルがパソコン本体のUSBコネクタに正しく接続されているかどうか確認してください。
☞ USBコネクタ ⇨ 「1章 2 各部の名称と機能」

-
- || A → 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器を認識していない可能性があります。
Windowsを再起動してください。
-

- || A → 次の手順でドライバーを正しくインストールしてください。
- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアとサウンド] カテゴリの [デバイスの追加] をクリックする
- 以降は、画面の指示に従って操作してください。

Q i.LINK (IEEE1394) 対応機器が使えない

|| A → ケーブルが、パソコン本体とi.LINK対応機器に正しく接続されているかどうか確認してください。

また、i.LINK対応機器の電源を入れてください。

🔌 接続について ➡ 「3章 3 i.LINK (IEEE1394) 対応機器」

.....

|| A → 何らかの原因で、システム (OS) が正しくi.LINK対応機器を認識していない可能性があります。

Windowsを再起動してください。

.....

|| A → 次の手順でドライバーを正しくインストールしてください。

① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアとサウンド] カテゴリの [デバイスの追加] をクリックする

以降は、画面の指示に従って操作してください。

Q SDメモ리카ード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードが使えない

|| A → メディアカードを正しくセットしてください。

デスクトップ画面のタスクバーで [エクスプローラー] アイコンをクリックし、[コンピューター] をクリックして、メディアカードのドライブのアイコンが表示されない場合は、メディアカードを抜き、もう一度挿入してください。

それでもメディアカードのドライブが認識されないときは、いったん電源を切ったあと、もう一度電源を入れてください。

Q SDメモ리카ード、メモリースティック、xD-ピクチャーカードに書き込み (データ保存) ができない

|| A → メディアカードの空き容量が不足している可能性があります。

次の操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダーを削除して空き容量を増やしてください。
メディアカードから削除したファイルは元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別のメディアカードを使用してください。

.....

A フォーマット形式が、使用するアプリケーションで対応していない可能性があります。メディアカードをフォーマットし直してください。フォーマットはメディアカードを使用する機器（デジタルビデオカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。フォーマットを行うと、そのメディアカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

.....

A SDメモ리카ードの場合、次の可能性があります。

ライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっている可能性があります。SDメモ리카ードを取り出し、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

.....

A メモリースティックの場合、誤消去防止スイッチが「Lock」状態になっている可能性があります。

メモリースティックを取り出し、「Lock」状態を解除してください。

Q 音楽用CDやWAVファイルを再生しても、音が出ない

A 通知領域の音量アイコンをダブルクリックして、音量が小さくなっていないか確認してください。

また、外部スピーカーを接続している場合は、本体背面のLINE OUT 端子に外部スピーカー（別売り）が正しく接続されているか確認してください。本体前面のヘッドホン出力端子にヘッドホン（別売り）を接続している場合は、外部スピーカーからサウンドは鳴りません。

Q 本体に接続したプリンターが動作しない

A プリンターのケーブルが正しく接続されているか確認してください。

また、パソコン本体の電源をいったん切り、プリンター、本体の順で電源を入れ直してください。

Q うまく印刷できない

A アプリケーションソフトまたはWindowsのプリンター設定で、ご使用のプリンターに正しく設定し直してください。

☞『アプリケーションソフトに付属の説明書』

Q テレビ、ラジオの調子がおかしい

A テレビ、ラジオの近くにパソコン本体やディスプレイを置いている場合、次のいずれかの対処を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変えてください。
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体やディスプレイの方向を変えてください。
- テレビ、ラジオから離してください。
- テレビ、ラジオを接続している電源コンセントとは別の電源コンセントを使ってください。
- 受信機に屋外アンテナを使ってください。
- 平行フィーダーを同軸ケーブルに替えてください。
- 電源コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れてください。

Q 省電力機能が正常に動作しない

A USB 対応機器やi.LINK 対応機器の種類によっては、省電力機能が正常に動作しない場合があります。

BIOS セットアップを起動し、[Advanced] メニューの [ACPI Settings] の [ACPI Sleep State] を [S1 only(CPU Stop Clock)] に設定してください。

🔍 「6章 BIOS セットアップ」

または、Windows 上の省電力機能を使用しないでください。

🔍 「2章 3 省電力機能について」

Q 誤ってTPMを初期化してしまった

A 緊急時バックアップアーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルを使用して、TPMの設定を復元してください。

🔍 復元方法 ⇄ 『TPMのヘルプ』

Q TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、次の項目を実行または確認してください。

- ハードディスクドライブの必要なデータのバックアップをとる
- PSDの内容を、記録メディアにバックアップをとる
- ハードディスクドライブに緊急時バックアップアーカイブファイルを作っている場合は、記録メディアにバックアップをとる
- Security Platform 初期化ウィザード実行時に作成した緊急時復元用トークンファイルがあるか確認する
- 控えておいた「所有者パスワード」、「緊急時復元用トークン」用のパスワードを確認する

なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。交換されたり、TPMが初期化された場合、Windowsにサインインしたあと（ハードディスクドライブには障害や問題がなくWindowsへサインインできる場合）、デスクトップ画面の通知領域で、[Security Platform] アイコンにTPMが初期化されていない内容のメッセージが表示されます。その場合は、緊急時バックアップアーカイブファイル、緊急時復元用トークンファイルを使って、TPMの設定を復元してください。

🔧 復元方法 ➡『TPMのヘルプ』

保守サービスについては、『保守サービスのご案内』を確認してください。

Q 異常なおいや過熱に気がついた

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグを電源コンセントから抜き、DCジャックからACアダプターのプラグを抜いてください。それから、お買い上げの販売店に連絡してください。

お買い上げの販売店でも原因がわからない場合は、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、東芝指定のサービス会社へご連絡ください。ご連絡の際は、次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- ご購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください。）

Q 操作できない原因がどうしてもわからない場合

A 操作できない原因がどうしてもわからない場合は、巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項を確認し、お買い上げの販売店、または『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、東芝指定のサービス会社にご連絡ください。

6

BIOS セットアップ

本章では、BIOS セットアッププログラムの使いかたと機能について説明します。
BIOS セットアッププログラムを使って、パソコン本体のシステム構成の設定や、
パスワードの登録／削除などができます。

1	BIOS セットアップを使う	84
2	BIOS セットアップの画面と設定項目	86
3	パスワードの設定.....	91
4	TPM を使う	96
5	起動ドライブの設定.....	100

① BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使いかたなどを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。

周辺機器の増設などを行わない限り、一度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーを交換または消耗した場合は、BIOS セットアップの設定内容は標準値に変更されますので、あらかじめ設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。



・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での項目／説明の表示はありません。

① 起動と終了／BIOS セットアップの操作

● 起動

1 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

2 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後に **[Delete]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。そのあとすぐに、**[Delete]** キーを再び数回押してください。

* 設定によって、パスワード入力時の **[Delete]** キーを押すタイミングは異なります。詳細は、「本章 3- BIOS セットアップを起動するとき」を参照してください。

セットアップ画面が表示されます。



・ **[Delete]** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **[Delete]** キーが受け付けられないと、システムが起動します。BIOS セットアップが起動できなかった場合は、上記の手順をやり直してください。

● 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 **[F10]** キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 **[Yes]** を選択し、**[Enter]** キーを押す

設定内容が有効になります。

BIOS セットアップが終了し、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 [Esc] キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 [Yes] を選択し、[Enter] キーを押す

BIOS セットアップが終了し、再起動されます。

基本操作

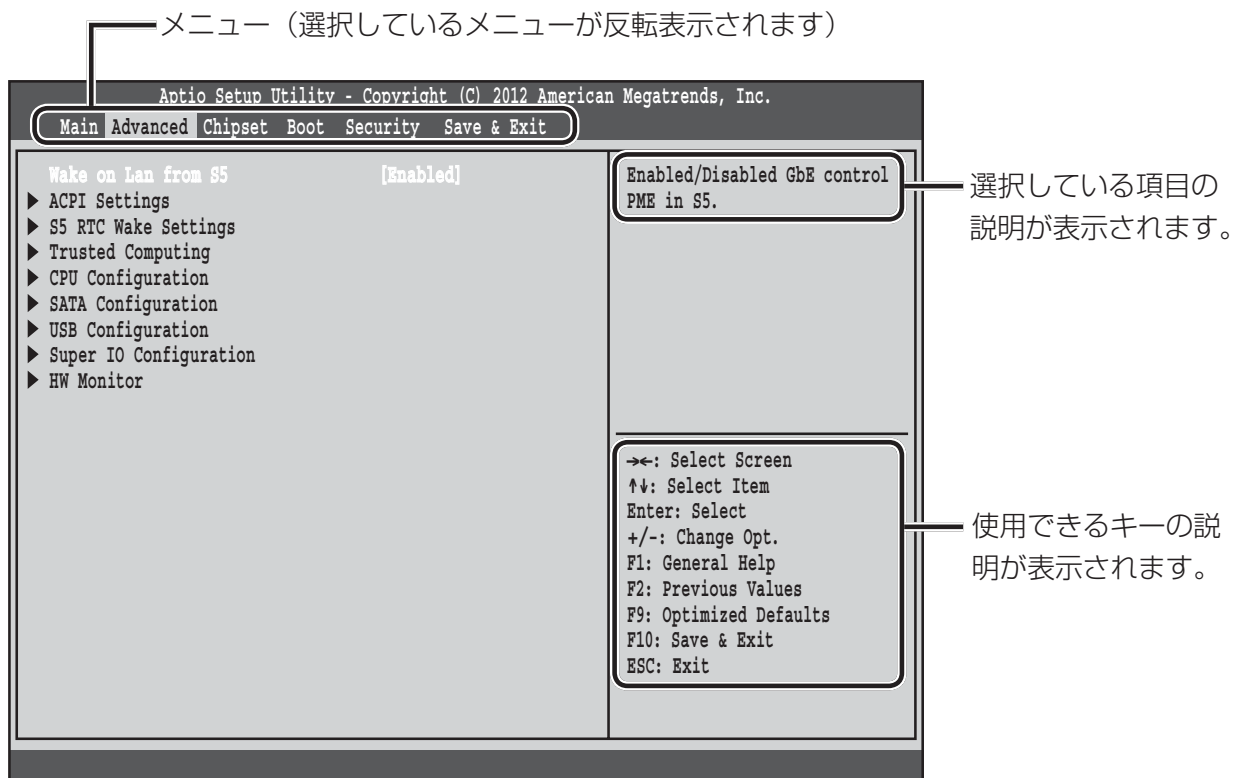
[←] または [→]	メニュー画面を選択する 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
[↑] または [↓]	変更したい項目を選択する 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
[Enter]	設定値を選択する／サブメニューや設定値の一覧を表示する
[+]、[-]	設定値を変更する
[F2]	設定内容を BIOS セットアップを起動した直後の設定値に戻す 「Load Previous Values ?」と表示されます。[Yes] を選択し、[Enter] キーを押してください。
[F9]	設定内容を標準値にする 「Load Optimized Defaults ?」と表示されます。[Yes] を選択し、[Enter] キーを押してください。 この操作を行ってもシステム日付、システム時間、TPM 設定（設定している場合）と各種パスワードの設定は変更されません。 Boot Mode 設定が、CSM Boot 設定に変更されます。
[F10]	設定を保存し、BIOS セットアップを終了する 「Save configuration and exit ?」と表示されます。[Yes] を選択し、[Enter] キーを押してください。 BIOS セットアップ終了後、システムが起動します。 保存しない場合は [No] を選択し、[Enter] キーを押してください。
[Esc]	・メイン画面で押すと、設定を無効にして、BIOS セットアップを終了する 「Quit without saving ?」と表示されます。[Yes] を選択し、[Enter] キーを押してください。 BIOS セットアップ終了後、システムが起動します。 ・サブメニュー画面で押すと、1つ前の画面に戻る
[F1]	BIOS セットアップのヘルプを表示する

② BIOS セットアップの画面と設定項目

BIOS セットアップの画面と設定項目について説明します。

① BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには6つのメニューがあります。



② 各メニューの概要

メニュー	概 要
Main	システムの概要が表示されます。
Advanced	ハードウェアの詳細を設定します。
Chipset	オンボードのデバイスを設定します。
Boot	起動に関する設定を行います。
Security	パスワードを設定します。
Save & Exit	BIOS セットアップの設定を保存したり、操作を終了します。

③ 設定項目

メニュー	項目	説明（サブ項目／説明）	工場出荷時の設定値
Main	BIOS Information	BIOS 情報を表示します。	
	Memory Information	メモリ情報を表示します。	
	System Date	日付を設定します。	—
	System Time	時間を設定します。	—
	Access Level	使用中のユーザーのアクセスレベルを表示します。	
Advanced	Wake On Lan from S5	Wake On Lanからの起動を設定します。	
	Boot Mode	Boot Modeを設定します。	
	ACPI Settings	APCIパラメーターを表示します。	
		ACPI Sleep State	APCIスリープ状態を選択します。 S3 only (Suspend to RAM)
	S5 RTC Wake Settings	RTCアラームを使って、S5からの起動を設定します。	
		Wake system with Fixed Time	指定した日時に電源を入れる機能を設定します。 Disabled
		Wake up Date* ²	起動日時（日付） 0
		Wake up hour* ²	起動日時（時） 0
		Wake up minute* ²	起動日時（分） 0
		Wake up second* ²	起動日時（秒） 0
	Trusted Computing	TPMに関する設定を行います。 「TPM State」の設定を変更した場合、保存して再起動するとTPMの状態が更新されます。	
		TPM Configuration	TPM構成情報を表示します。
		Security Device Support	TPMを有効／無効にします。 Disable
		TPM State	TPMの状態を設定します。 「Security Device Support」を「Enable」にして保存すると設定できます。 Disabled
		Pending operation	TPMの状態が有効になっている場合に設定できます。 None
		Current Status Information	現在のTPMの状態を表示します。

* 1 標準値に戻すと「CSM Boot」に変更されます。

* 2 「Wake system with Fixed Time」を「Enabled」にすると設定できます。

メニュー	項目	説明（サブ項目／説明）	工場出荷時の設定値
Advanced のつづき	CPU Configuration *3	CPU情報の表示とCPUの機能の設定をします。	
		CPU Configuration	CPU情報を表示します。
		Hyper-threading *4	Hyper-threading機能を有効／無効にします。 Enabled
		Active Processor Cores	使用するプロセッサのコア数を指定します。 All
		Execute Disable Bit	Execute Disable Bit 機能を有効／無効にします。 Enabled
		Intel Virtualization Technology	仮想化機能を有効／無効にします。 Enabled
		EIST	CPUのEIST機能を有効／無効にします。 Enabled
		Turbo Mode *5	ターボモードを有効／無効にします。 Enabled
	SATA Configuration	SATA (SATA0～SATA1) の構成情報を表示し、各 SATA Port control を有効／無効にします。	
		SATA X *6 SATA Port Control	各 SATA ポートコントロールを有効／無効にします。 Enabled
	USB Configuration	USBポートに関する表示と設定を行います。	
		USB Devices:	USBデバイスの使用状況を表示します。
		Legacy USB Support	レガシーUSBサポートを有効／無効／自動にします。 Enabled
		USB Port (XXXXX) *7	各 USB ポートを有効／無効にします。 Enabled
	Super IO Configuration	シリアルポートに関する表示と設定を行います。	
		Super IO Chip	Super IO Chip の名称を表示します。
		Serial Port 0 Configuration	シリアルポート (COMA) のパラメーターを設定します。
		Serial Port	シリアルポートを有効／無効にします。「Enabled」にすると、構成情報が表示されます。 Enabled
		Change Settings	シリアルポートの設定を変更します。 Auto
	HW Monitor	本製品の動作状態を表示します。	
	AMI Graphic Output Protocol *8	表示するモニタを選択します。	

* 3 搭載されるCPUの種類により、表示の内容が異なります。

* 4 Hyper-threading 搭載 CPU の場合に表示されます。

* 5 ターボブースト搭載 CPU の場合に表示されます。

* 6 X には各 SATA の No が表示されます。

* 7 XXXXX には各 USB ポートの位置（本体を横置きにした場合の位置）を示す語句が表示されます。

* 8 「Boot Mode」が「UEFI Boot」の場合に表示されます。

メニュー	項目	説明 (サブ項目/説明)	工場出荷時の設定値
Advanced のつづき	Network stack	UEFIのネットワークブートを設定します。	
		Network stack	ネットワークブートの有効/無効を設定します。
		Ipv4 PXE Support	Ipv4モードを有効/無効に設定します。
		Ipv6 PXE Support	Ipv6モードを有効/無効に設定します。
Chipset	Restore AC Power Loss	AC電源が切断後、復帰したときの動作を設定します。	Power Off
	Audio Configuration	オーディオに関する設定を行います。	
		Azalia HD Audio	Azalia HD オーディオを有効/無効にします。
	1394/Card reader controller	1394、カードリーダーを有効/無効にします。	Enabled
	Onboard LAN	オンボードLANを有効/無効にします。	Enabled
	LAN boot item	CSMのネットワークブートを有効/無効にします。	Enabled
	LAN MAC Address	MAC アドレスを表示します。	
	Wake on Ring	Wake on Ring を有効/無効に設定します。	Enabled
	VT-d	VT-d を有効/無効にします。	Disabled
	Initate Graphic Adapter	起動時に使用するグラフィックアダプターを設定します。	PEG/IGD
	DVMT Total Gfx Mem	DVMT Total Gfxのメモリサイズを設定します。	256M
Boot	Boot Configuration	起動時の構成を設定します。	
		Bootup NumLock State	起動時、 [Num Lock] キーを ON/OFF にします。
		Beeper Enable State	起動時のビープ音を有効/無効にします。 * 本項目を [Disabled] (ビープ音: 無効) にすると、BIOS セットアップの起動が手順どおりにできなくなります (ビープ音が鳴らず、 [Delete] キーを押すタイミングがつかめなくなるため)。本項目を [Disabled] に設定する場合は十分にご注意ください。
		Screen LOGO Show	TOSHIBA ロゴ表示を有効/無効にします。
	Boot Option Priorities	起動時のデバイスの優先順位を設定します。	
		Boot Option #X	X 番目の起動デバイスを設定します。
			Windows Boot Manager

メニュー	項 目	説明（サブ項目／説明）		工場出荷時の設定値
Boot のつづき	CD/DVD ROM Drive BBS Priorities * ⁹	ドライブが複数の場合、優先順位を設定します。 [Boot Option #1]、[Boot Option #2] … の順に、設定したドライブから起動されるようになります。		
	Hard Drive BBS Priorities * ⁹	ハードディスクが複数の場合、優先順位を設定します。 [Boot Option #1]、[Boot Option #2] … の順に、設定したハードディスクから起動されるようになります。		
	Network Device BBS Priorities * ⁹	ネットワークデバイスの優先順位を設定します。 [Boot Option #1]、[Boot Option #2] … の順に、設定したネットワークデバイスから起動されるようになります。		
	CSM parameters	Compatible Support Module（CSM）の設定を行います。		
Security	パスワードの設定を行います。			
	Password Description	BIOSパスワードを設定します。		
		Administrator Password	管理者パスワードを登録／変更／削除します。	－
		User Password	ユーザーパスワードを登録／変更／削除します。	－
		Security option	パスワードの入力を求める範囲を設定します。	Setup
	Secure Boot Menu	Secure Boot機能を設定します。特に知識のないかたは設定を変更しないでください。		
	HDD Security Configuration	HDDパスワードを設定します。		
		Set User Password	ハードディスクに対して、HDDユーザーパスワードを登録／変更／削除します。	－
		Set Master Password	ハードディスクに対して、HDDマスターパスワードを登録／変更／削除します。	－
Save & Exit	Save Changes and Exit	変更した内容を保存して、終了します。		－
	Discard Changes and Exit	変更した内容を保存しないで終了します。		－
	Restore Defaults * ¹⁰	設定内容を標準値にします。		－

^{*9} 「Boot Mode」が「CSM Boot」の場合に表示されます。

^{*10} システム日付、システム時間、TPM設定（設定している場合）と各種パスワードの設定は変更されません。
Boot Mode設定が、CSM Boot設定に変更されます。

③ パスワードの設定

パソコン本体またはハードディスクドライブにパスワードを設定して、ほかの人がパソコンを使用したり、設定を変えたりできないようにできます。

パスワードを正しく入力しないとシステムやBIOSセットアップは起動しません。

● パスワードの種類

パスワードには次の3種類があります。

● Windowsパスワード

- ・ Windowsパスワードを登録すると、Windowsにサインインするとき、インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するときに、パスワードの入力が必要になります。

🔍 詳細 ➡ 『Windows ヘルプとサポート』

● 管理者パスワード、ユーザーパスワード

- ・ 管理者パスワードやユーザーパスワードを登録すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときなどにパスワードの入力が必要になります。
- ・ 通常はユーザーパスワードを登録してください。管理者パスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。管理者パスワードを登録すると、管理者パスワードを知らないユーザーは、BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなどいくつかの制限を加えることができます。この制限を加える必要がなければ、ユーザーパスワードだけ登録してください。

● HDDユーザーパスワード

- ・ このパスワードを設定すると、ハードディスクを起動するときにパスワードの入力が必要になります。
- ・ ハードディスクドライブを別のパソコンに取り付けてもパスワードを入力しない限り、ハードディスクドライブを使用できません。

● パスワードの入力

システムまたはBIOSセットアップを起動するとき、設定状況に応じてパスワードの入力画面が表示されます。

● システムを起動するとき

● [Security] メニューの [Security option] の設定が [Setup] の場合

管理者パスワードまたはユーザーパスワードを設定していてもパスワード入力画面は表示されません。

HDDユーザーパスワードを設定している場合は、「Enter User password : 」と表示されます。HDDユーザーパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。

● [Security] メニューの [Security option] の設定が [Always] の場合

管理者パスワードまたはユーザーパスワードを設定している場合は、「Enter Password : 」と表示されます。管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。

HDDユーザーパスワードを設定している場合は、「Enter User password : 」と表示されます。HDDユーザーパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押します。

● BIOS セットアップを起動するとき

パスワードの入力をうながすメッセージが表示されるタイミングと、BIOS セットアップを起動するための **[Delete]** キーを押すタイミングが、設定によって異なります。

● [Security] メニューの [Security option] の設定が [Setup] の場合

- ・ 管理者パスワードまたはユーザーパスワードのみ設定している場合
電源を入れ、ビープ音の直後に **[Delete]** キーを数回押すと、**[Enter Password:]** と表示されます。管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。
- ・ HDD ユーザーパスワードを設定している場合
電源を入れると、**[Enter User password:]** と表示されます。HDD ユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。そのあとすぐに、**[Delete]** キーを数回押します。管理者パスワードまたはユーザーパスワードも設定している場合は、**[Enter Password:]** と表示されるので、管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。

● [Security] メニューの [Security option] の設定が [Always] の場合

- ・ 管理者パスワードまたはユーザーパスワードのみ設定している場合
電源を入れると、**[Enter password:]** と表示されます。設定した管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。そのあとすぐに、**[Delete]** キーを数回押します。
- ・ HDD ユーザーパスワードを設定している場合
電源を入れると、管理者パスワードまたはユーザーパスワードを設定している場合は、**[Enter Password:]** と表示されます。管理者パスワードまたはユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。
その次に **[Enter User password:]** と表示されます。HDD ユーザーパスワードを入力して **[Enter]** キーを押します。そのあとすぐに、**[Delete]** キーを数回押します。



- ・ 管理者パスワードを設定している場合、ユーザーパスワードを入力して起動すると、BIOS セットアップで設定できる項目が制限されます。

● パスワードの設定

管理者パスワード、ユーザーパスワードは3文字から20文字まで、HDD ユーザーパスワードは1文字から32文字までで設定します。キーボードから入力しているとき、入力した文字は表示されません。



お願い

- ・ パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・ パスワードは表示されませんので、確認することはできません。
- ・ 管理者パスワードまたはユーザーパスワードを忘れてしまった場合、『保守サービスのご案内』をご覧ください。パスワードの解除は有料で行っています。
HDD ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。
またどちらの場合も、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

① 管理者パスワード

● 登録

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [Security] メニューでカーソルバーを [Administrator Password] に合わせ、**[Enter]** キーを押す
パスワードが入力できる状態（[Create New Password] 画面）になります。
- 3 パスワードを入力し、**[Enter]** キーを押す
パスワードは20文字以内で入力します。
確認入力の画面（[Confirm New Password] 画面）が表示されます。
- 4 もう一度パスワードを入力し、**[Enter]** キーを押す
確認のため、手順4と同じパスワードをもう一度入力してください。
BIOS 設定を保存したあと、パスワードが登録されます。



メモ

・2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラー（[Invalid Password] 画面）が表示されます。手順2からやり直してください。

● 削除／変更

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [Security] メニューでカーソルバーを [Administrator Password] に合わせ、**[Enter]** キーを押す
現在のパスワードを入力する画面（[Enter Current Password] 画面）が表示されます。
- 3 パスワードを入力し、**[Enter]** キーを押す
新しいパスワードを入力する画面（[Create New Password] 画面）が表示されます。
- 4 パスワードを削除する場合は何も入力しないで、変更する場合は新しいパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押す
削除する場合は、確認の画面（[Clear Old Password. Continue?] 画面）が表示されます。
変更する場合は、確認入力の画面（[Confirm New Password] 画面）が表示されます。
- 5 パスワードを削除する場合は [Yes] を選択し、**[Enter]** キーを押す。変更する場合は手順4と同じパスワードを入力し、**[Enter]** キーを押す
パスワードが削除または変更されます。

② ユーザーパスワード

[Security] メニューの [User Password] で登録できます。
登録、変更、削除の方法は、管理者パスワードの手順と同じです。
🔑 「本節 - 1 管理者パスワード」

③ HDD ユーザーパスワード

● 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。



お願い

- ・万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
HDD ユーザーパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

● 登録

1 BIOS セットアップを起動する

2 [Security] メニューでカーソルバーを [HDD0:XXXXX] に合わせ、 **Enter** キーを押す



メモ

- ・ XXXXX にはご使用のハードディスク名が表示されます。

3 [Set User Password] に合わせ、**Enter** キーを押す

パスワードが入力できる状態（[Create New Password] 画面）になります。

4 パスワードを入力し、**Enter** キーを押す

パスワードは32文字以内で入力します。

確認入力の画面（[Confirm New Password] 画面）が表示されます。

5 もう一度パスワードを入力し、**Enter** キーを押す

確認のため、手順4と同じパスワードをもう一度入力してください。

パスワードが登録されます。



メモ

- ・ 2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラー（[Invalid Password] 画面）が表示されます。手順3からやり直してください。

● 削除／変更

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [Security] メニューでカーソルバーを [HDD0:XXXXX] に合わせ、
Enter キーを押す



メモ

・ XXXXX にはご使用のハードディスク名が表示されます。

- 3 [Set User Password] に合わせ、**Enter** キーを押す
現在のパスワードを入力する画面（[Enter Current Password] 画面）が表示されます。
- 4 パスワードを入力し、**Enter** キーを押す
新しいパスワードを入力する画面（[Create New Password] 画面）が表示されます。
- 5 パスワードを削除する場合は何も入力しないで、変更する場合は新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押す
確認入力の画面（[Confirm New Password] 画面）が表示されます。
- 6 パスワードを削除する場合は何も入力しないで、変更する場合は手順5と同じパスワードを入力し、**Enter** キーを押す
パスワードが削除または変更されます。

4 TPMを使う

本製品には、TPM (Trusted Platform Module) が用意されています。
TPMは、TCG (Trusted Computing Group) が策定した仕様に準拠しています。

1 TPMとは

TPM (Trusted Platform Module) は、TCG (Trusted Computing Group) が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラチップです。

一般的に、電子データの保護は暗号処理方式 (暗号アルゴリズム) によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。

また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なパソコン環境を構築できます。

本製品では、TPMの設定は、BIOS セットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。

TPMを使用するための設定や使用方法是『TPMのヘルプ』を参照してください。



お願い

- ・「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windows パスワードやユーザーパスワードとは別に TPM に対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でも TPM で保護されたデータを復元することはできません。
 - ・本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ (TPM) 内のデータは保証いたしません。TPM を使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップウィザードを使用して、TPM をバックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ・本製品を修理・保守に出した場合、内蔵している TPM に障害がなくても TPM が交換される場合があります。その場合、バックアップウィザードを使用して、TPM の設定を復元してください。
 - ・TPM では、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
 - ・所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPM に関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザーが BIOS セットアップの TPM に関する項目を操作できないように、管理者用パスワードの設定をおすすめします。
- ☞ 設定方法について ☞ 「本章 3 パスワードの設定」
- ・所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPM の使用を再開する場合は、もう一度 TPM へ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

② BIOS セットアップでのTPMの設定

TPMを使用するには、まずBIOS セットアップで各種の設定を行う必要があります。

● TPM を有効にする

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [Advanced] メニューでカーソルバーを [Trusted Computing] に合わせ、
[Enter] キーを押す
設定用の画面に切り替わります。
- 3 [Security Device Support] にカーソルバーを合わせ、[Enter] キーを押す
サブ画面が表示されます。
- 4 [Enable] を選択し、[Enter] キーを押す



お願い

・ BIOS セットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザーが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザーに操作制限を加えることをおすすめします。

☞ 管理者以外のユーザーの制限について ☞ 「本章 3 パスワードの設定」

- 5 [F10] キーを押す
画面にメッセージが表示されます。
- 6 [Yes] を選択し、[Enter] キーを押す
ここまでの設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了し、再起動されます。
- 7 BIOS セットアップを起動し、[Advanced] メニューを表示し、[Trusted Computing] を選択する
手順1～2を繰り返してください。[Security Device Support] が [Enable] に変更され、[TPM State] が表示されていることを確認してください。
- 8 [TPM State] にカーソルバーを合わせ、[Enter] キーを押す
サブ画面が表示されます。
- 9 [Enabled] を選択し、[Enter] キーを押す
- 10 [F10] キーを押す
画面にメッセージが表示されます。
- 11 [Yes] を選択し、[Enter] キーを押す
設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了し、再起動されます。

③ TPMのインストール方法

TPMを有効にしたあと、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

- 1 スタート画面のタイルのない部分で右クリックする
- 2 [すべてのアプリ] をクリックする
- 3 [アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 4 [セットアップ画面へ] をクリックする
- 5 [アプリケーション] タブをクリックする
- 6 画面左側の [Infineon TPM Software Professional Package] をクリックし、[「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ] をクリックする
- 7 画面の指示に従ってインストールする

TPMを使用するための設定や使用方法是、ヘルプを参照してください。

④ Security Platformの初期化

Security Platformの機能を有効にするためには、初期化を実行する必要があります。

「Security Platform クイック初期化ウィザード」を使うと、簡単にSecurity Platformの初期化ができます。

詳細な設定をしながら初期化したい場合は、「Security Platform 初期化ウィザード」と「Security Platform ユーザー初期化ウィザード」を実行してください。

🔍 初期化ウィザードの詳細 ➡ 『TPMのヘルプ』

TPMの設定は、Windowsの管理者権限を持つユーザーでサインインして行ってください。

● ヘルプの起動方法

- 1 デスクトップ画面の通知領域の [Security Platform] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [ヘルプ] をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

⑤ パソコンを捨てるとき／人に譲るとき

パソコンを廃棄する場合、秘密の漏えいを防ぐために、次の2つの処理を必ず実行してください。パソコンの所有者が変わる場合も同様です。

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をアンインストールし、
TPMのバックアップを消去する
または
ハードディスクドライブ上の全データを消去する

詳しくは、『TPMのヘルプ』を起動して、画面の[目次]から[よく聞かれる質問(FAQ)]をクリックし、「アンインストールした後はどんな情報がシステムに残りますか。」を参照してください。

☞『TPMのヘルプ』について

☞ハードディスクドライブ上の全データを消去する方法 ☞『セットアップガイド』

■ TPMの所有者情報とユーザー登録を削除する

本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するときなど、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 [Advanced] メニューでカーソルバーを [Trusted Computing] に合わせ、
[Enter] キーを押す
設定用の画面に切り替わります。
- 3 [Pending operation] にカーソルバーを合わせ、[Enter] キーを押す
 ・ [Pending operation] は [Security Device Support] を [Enable]、[TPM State] を [Enabled] に設定した場合のみ、表示されます。
- 4 [TPM Clear] にカーソルバーを合わせ、[Enter] キーを押す
- 5 [F10] キーを押す
画面にメッセージが表示されます。
- 6 [Yes] を選択し、[Enter] キーを押す
設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了し、再起動されます。



お願い

・所有者情報とユーザー登録を削除すると、TPMに関するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「TPM」を操作できないように設定することをおすすめします。

☞ 管理者以外のユーザーの制限について ☞「本章 3 パスワードの設定」

・所有者情報とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

5 起動ドライブの設定

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。
起動ドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

① 電源を入れるときに変更する

1 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後に **[F11]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。

2 起動ドライブを **[↑]** **[↓]** キーで選択し、**[Enter]** キーを押す



・ 起動ができるUSB接続の機器を接続した場合、起動ドライブとして項目に追加されます。

② 「BIOS セットアップ」で変更する

BIOS セットアップでは、起動ドライブの優先順位を設定し、保存しておくことができます。

1 BIOS セットアップを起動する

2 **[Boot]** メニューでカーソルバーを **[Boot Option #1]** に合わせ、**[Enter]** キーを押す

サブ画面が表示されます。

3 「**[Boot Option #1]**」に1番目に起動するデバイスを選択して、**[Enter]** キーを押す

起動可能なメディア／USB接続の機器を複数セットしている場合は、同様にして、「**[Boot Option #2]**」、「**[Boot Option #3]**」などを設定してください。

4 **[F10]** キーを押し、設定を保存してBIOS セットアップを終了する

付 録

本製品の仕様や、そのほかの設定方法について説明しています。

1	製品仕様	102
2	各インターフェース	105
3	エラーメッセージ	109
4	技術基準適合について	110
5	Windows 7でCD/DVDに書き込む	112

1 製品仕様

仕様概要

モデルにより多少異なります。

機 種		EQUIUM S7200	
プロセッサ		『本製品の仕様について』 参照	
メモリ			
表示機能	コントローラー	CPUに内蔵	
	ビデオ RAM	メインメモリと共有* ¹	
	グラフィック表示* ²	800× 600	1677万色
		1024× 768	1677万色
		1280× 1024	1677万色
		1366× 768	1677万色
		1440× 900	1677万色
		1600× 1200	1677万色
		1680× 1050	1677万色
		1920× 1080	1677万色
1920× 1200	1677万色		
通信機能	適合規格	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T	
補助記憶装置	HDD* ³	『本製品の仕様について』 参照	
	ドライブ* ⁴	DVD-ROM	CD-ROM : 最大24倍速 (読み出し) DVD-ROM : 最大8倍速 (読み出し)
		DVD スーパー マルチ	CD-ROM : 最大24倍速 (読み出し) CD-R : 最大24倍速 (書き込み) CD-RW : 最大24倍速 (書き換え) DVD-ROM : 最大8倍速 (読み出し) DVD-R : 最大8倍速 (書き込み) DVD-R DL : 最大6倍速 (書き込み) DVD-RW : 最大6倍速 (書き換え) DVD+R : 最大8倍速 (書き込み) DVD+R DL : 最大6倍速 (書き込み) DVD+RW : 最大8倍速 (書き換え) DVD-RAM : 最大5倍速 (書き換え)

* 1 ビデオ RAM容量は、コンピュータのメインメモリ容量に依存します。

① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする→ [デスクトップアプリメニュー] アイコンをダブルクリックする

② [コントロールパネル] → [画面の解像度の調整] をクリックする

③ 表示される画面の [詳細設定] をクリックし、数値を確認する

* 2 解像度および表示色は、接続する表示装置の表示能力およびサポートする OSにより異なります。

* 3 ハードディスクの容量は次の手順で確認することができます。

① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする→ [デスクトップアプリメニュー] アイコンをダブルクリックする

② [サポート&リカバリー] → [PC 診断ツール] をクリックする

③ [基本情報] タブの [ハードディスク全容量] で確認する

「東芝 PC 診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。

* 4 ご購入のモデルにより、異なります。『本製品の仕様について』を参照してください。

機 種		EQUIUM S7200
補助記憶装置	ブリッジメディア スロット	1 スロット (SDメモリカード* ⁵ 、SDHCメモリカード* ⁵ 、 メモリースティック* ⁶ 、メモリースティックPRO* ⁶ 、 xD-ピクチャーカード* ⁷)
入力装置		『本製品の仕様について』 参照
インター フェース	シリアル	1 ポート D-SUB 9ピン、16550A 互換
	アナログRGB	1 ポート アナログRGB (3列タイプ)
	デジタルRGB	1 ポート デジタル (DVI-D 準拠)
	PS/2 マウス	1 ポート
	PS/2 キーボード	1 ポート
	LAN	1 ポート
	i.LINK (IEEE1394)* ⁸	1 ポート (4ピン)
	オーディオ	前面 マイク入力、ヘッドホン出力 背面 LINE IN、LINE OUT、マイク入力
	USB* ⁹	前面2ポート／背面2ポート
サウンド機能		チップセット内蔵+High Definition Audio コーデック
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 (一次電池によるバックアップ)
電源	電源条件* ¹⁰	AC100V 50/60Hz
	最大消費電力	120W
周囲温度* ¹¹	動作	10℃～35℃
	非動作	－20℃～60℃
相対湿度* ¹¹	動作	20%～80% (ただし結露しないこと)
	非動作	20%～90% (ただし結露しないこと)
外形寸法	本体	68 (W) × 290 (D) × 182 (H) mm (縦置き時、台座および突起部含まず)
	キーボード	456 (W) × 169 (D) × 40 (H) mm (非チルトアップ時)
質量	本体	約3.1kg (台座を含む)
	キーボード	約850g

* 5 SDメモリカードは2GBのメディアまで使用できます。SDHCメモリカードは32GBのメディアまで使用できます。SDXCメモリカードは64GBのメディアまで使用できます。また市販のアダプターを接続することでminiSDメモリカード (miniSDHCメモリカードを含む)、microSDメモリカード (microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含む) も使用できます。また、SDIOカードには対応していません。

* 6 メモリースティックは256MB、メモリースティックPROは32GBのメディアまで使用できます。著作権保護技術MagicGateには対応していません。

メモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをご使用の場合は、専用の「メモリースティック デュオ アダプター」を取り付けてからご使用ください。

メモリースティック マイクロをご使用の場合は、専用の「メモリースティック マイクロ アダプター」を取り付けてからご使用ください。

* 7 xD-ピクチャーカードは2GBのメディアまで使用できます。

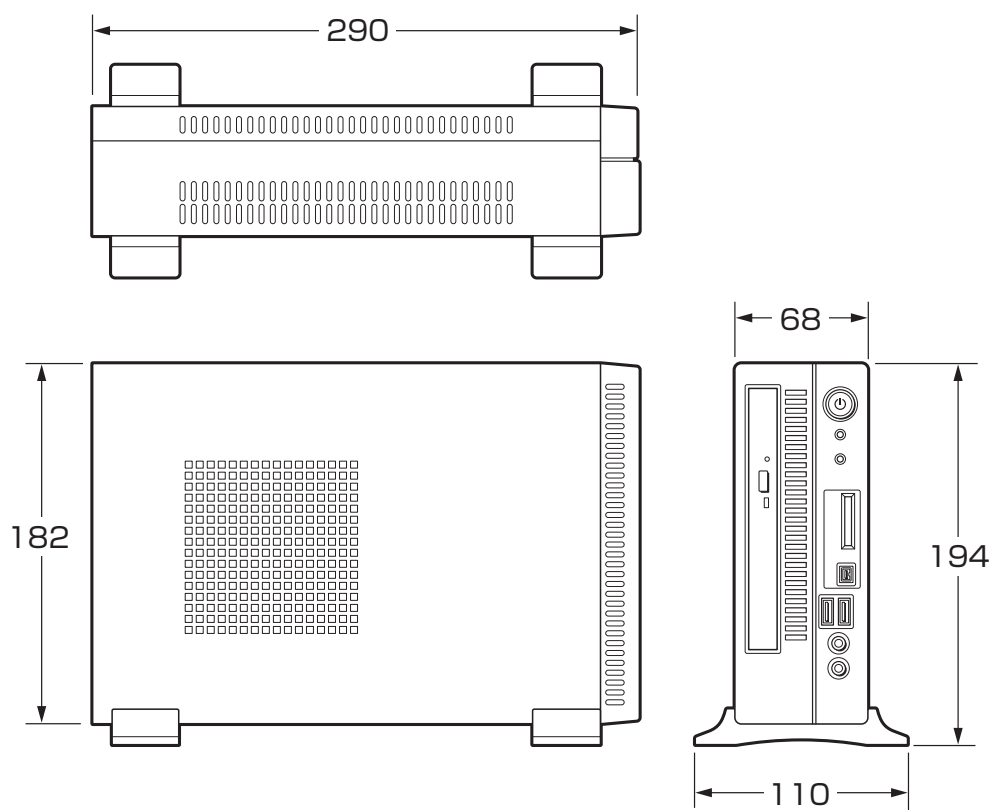
* 8 i.LINK 対応機器すべての動作を保証するものではありません。

* 9 USB1.1/2.0対応。USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

*10 UPS (無停電電源装置) を使用する場合には、常時正弦波出力タイプを必ず使用してください。

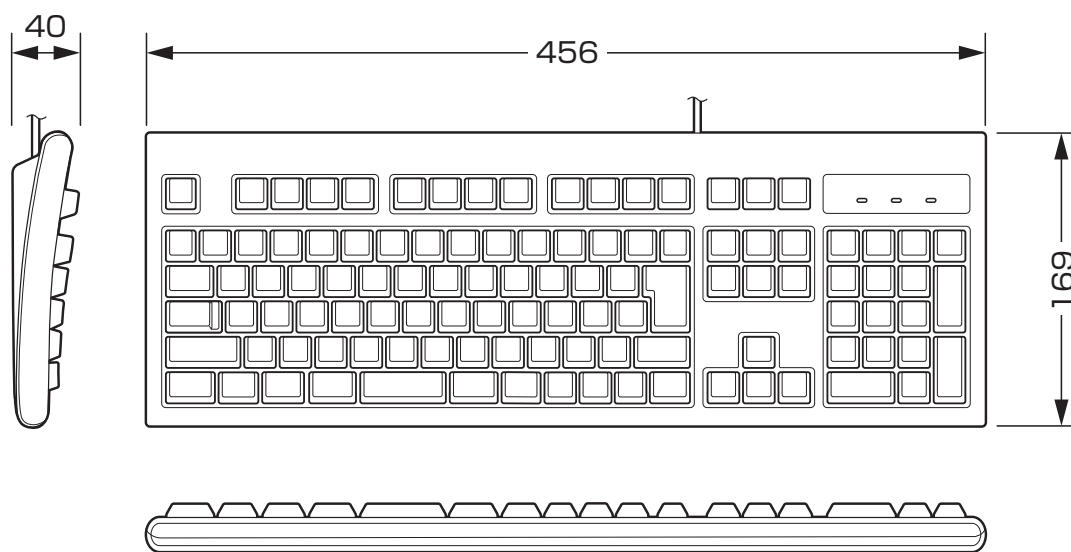
*11 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。

● 外形寸法図（本体）



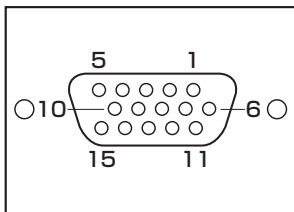
(単位：mm)

● 外形寸法図（キーボード）



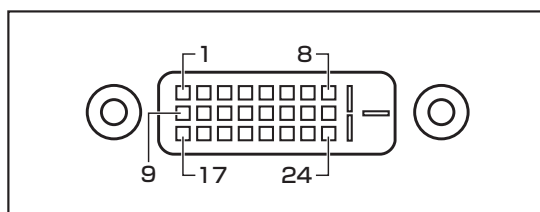
(単位：mm)

(注) I/Oは本体から見た場合の入出力を示します。



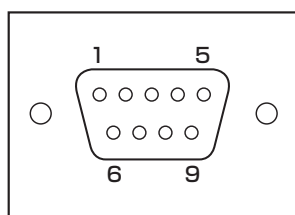
ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	ID2	モニタID（未使用）	
5	GND	グランド	
6	GND	グランド	
7	GND	グランド	
8	GND	グランド	
9	+5V	+5V（DDC用）	
10	GND	グランド	
11	ID0	モニタID（未使用）	
12	DDCDAT	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号（TTL）	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号（TTL）	O
15	DDCCLK	SCL データクロック信号	I/O

● デジタルRGBインターフェース



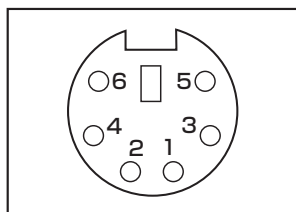
ピン番号	意 味	ピン番号	意 味
1	T.M.D.S. データ2 -	13	T.M.D.S. データ3 + (未使用)
2	T.M.D.S. データ2 +	14	電圧5V
3	T.M.D.S. データ2/4 シールド	15	グラウンド (5V用)
4	T.M.D.S. データ4 - (未使用)	16	ホットプラグ信号
5	T.M.D.S. データ4 + (未使用)	17	T.M.D.S. データ0 -
6	DDC クロック信号	18	T.M.D.S. データ0 +
7	DDC データ信号	19	T.M.D.S. データ0/5 シールド
8	アナログ垂直同期信号(未使用)	20	T.M.D.S. データ5 - (未使用)
9	T.M.D.S. データ1 -	21	T.M.D.S. データ5 + (未使用)
10	T.M.D.S. データ1 +	22	T.M.D.S. クロックシールド
11	T.M.D.S. データ1/3 シールド	23	T.M.D.S. クロック信号+
12	T.M.D.S. データ3 - (未使用)	24	T.M.D.S. クロック信号-

● シリアルインターフェース



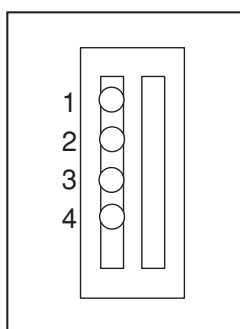
ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ端末レディ	O
5	GND	グラウンド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I

● PS/2キーボードインターフェース・PS/2マウスインターフェース



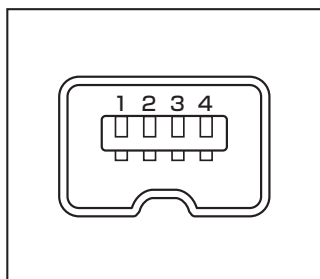
ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	DATA	データ	I/O
2	Unused	未使用	
3	GND	グラウンド	
4	+5V	+5V	
5	CLOCK	クロック	I/O
6	Unused	未使用	

● USBインターフェース



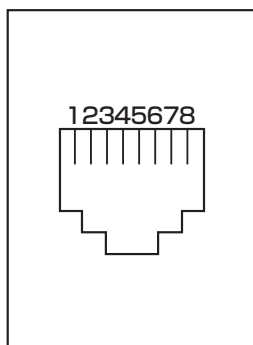
ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	VBUS	+5V	
2	D -	マイナスデータ	I/O
3	D +	プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	

● i.LINK (IEEE1394) インターフェース



ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	TPB -	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
2	TPB +	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
3	TPA -	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	I/O
4	TPA +	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	I/O

● LAN インターフェース



ピン番号	信号名	意 味	I/O
1	BI_DA +	送受信データ A (+)	I/O
2	BI_DA -	送受信データ A (-)	I/O
3	BI_DB +	送受信データ B (+)	I/O
4	BI_DC +	送受信データ C (+)	I/O
5	BI_DC -	送受信データ C (-)	I/O
6	BI_DB -	送受信データ B (-)	I/O
7	BI_DD +	送受信データ D (+)	I/O
8	BI_DD -	送受信データ D (-)	I/O

③ エラーメッセージ

この項目では、システム起動時に発生する可能性のあるエラーメッセージを説明します。



お願い

- ・これらのエラーが繰り返し発生する場合は、エラーメッセージの内容と現在の本体の設定環境を具体的に記録し、『保守サービスのご案内』をご覧ください。すぐに東芝指定のサービス会社までお問い合わせください。

エラーメッセージ	説 明
CMOS Checksum Bad, BIOS settings have been re-initialized. Press F1 to resume Press DEL to enter setup	CMOSおよび日付がクリアされました。内蔵バッテリーが消耗している可能性があります。 新しいバッテリーに交換してください。 ☞「4章 2 内蔵バッテリーの交換」 バッテリー交換後、BIOSセットアップを起動し、設定項目および日付を設定し直してください。
Invalid Password	入力したパスワードが正しくありません。 再起動して正しいパスワードを入力してください。
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	システムを起動する装置が見つかりません。再起動してください。 再びエラーメッセージが表示される場合は、BIOSセットアップを起動し、ハードディスクが正しく接続されているか、起動ドライブの設定が正しいか確認してください。

4 技術基準適合について

● 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

● 電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

● 高調波対策について

本装置は、「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

● レーザー製品の取り扱いについて

- ・ 本製品は、レーザーシステムを使用しています。本製品を正しくお使いいただくため、説明書をよくお読みください。また、お読みいただいたあとも必ず保管してください。修理などが必要な場合は、お買い求めの販売店、または保守サービスに依頼してください。
- ・ 本説明書に記載された以外の調整・改造を行うと、レーザー被爆の原因になりますので絶対におやめください。
- ・ レーザー光に直接被爆しないため、絶対に製品を分解しないでください。

クラス1 レーザー製品

● 仕様について



お願い

- ・ 本製品の仕様は国内向けになっております。海外ではご使用にならないでください。

● 修理・サービスについて

保証期間中および保証期間後の保守サービスについては、『保守サービスのご案内』をご覧ください。
うえ、東芝指定のサービス会社またはお買い上げの販売店にご相談ください。

● 内蔵バッテリーの寿命について

- 本製品の内蔵バッテリーは消耗品であり、寿命は約3年です（使用環境や保管状態により、3年に満たない場合があります）。

● 有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、24時間を超えるような長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

対象品名

ハードディスクユニット、CD/DVDドライブ、キーボード、マウス、冷却用ファン、ACアダプター

社団法人 電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_FuLZW1JpDj.pdf

5 Windows 7でCD/DVDに書き込む

Windows 7でDVDスーパーマルチモデルの場合、「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD/DVDにデータを書き込むことができます。

書き込みを行う際は、「3章 2 ドライブ」を合わせてお読みください。

- 書き込みを行う際は「TOSHIBA Disc Creator」を使用してください。
初めて使用するときは、[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックし、表示される画面に従ってインストールしてください。
詳しい使用方法是アプリケーションのヘルプをご覧ください。
CD/DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
- CD/DVDに書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえで使用ください。
守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。
本製品に内蔵されているDVDスーパーマルチドライブには書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能が搭載されていますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えず、エラーとなる場合があります。
- 書き込みに失敗したCD/DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。
また、記憶内容の変化・消失など、CD/DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



・ CD-R、DVD-R、DVD+Rに書き込みできるのは1回限りです。書き込みに失敗したCD-R、DVD-R、DVD+Rは再利用できませんが、CD-RW、DVD-RW、DVD+RWは消去すると再利用できます。

● 書き込む前に

- CD/DVD に書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。
☞ 使用できるCD/DVDについて ☞ 「3章 2 ドライブ」
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。
☞ 省電力機能について ☞ 「2章 3 省電力機能について」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバー
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。

- SDメモリカード、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスクドライブ以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、著作権保護されているDVD-Videoのバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+RからCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

● 書き込み／削除を行うときは

- マウスを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
 - パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
 - 周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
 - パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
 - 重要なデータについては、データ書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
 - 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを自動的にチェック（簡易チェック）するように設定されています。
設定内容は次の手順で確認できます。
- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [マルチメディア] → [Disc Creator] をクリックする
「TOSHIBA Disc Creator」の [Startup Menu] 画面が表示されます。
 - ② [データCD/DVD作成] をクリックする
 - ③ メインウィンドウで [設定] をクリックし、[書き込み設定] → [データCD/DVD設定] をクリックする
[データCD/DVD設定] 画面が表示されます。
 - ④ [データチェック] で [書き込み後にデータをチェックする] がチェックされているか確認する
[簡易チェック] と [詳細チェック] を選択することができます。

- CD-RW、DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RW、DVD-RW、DVD+RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。



トラブルチェックシート

東芝指定のサービス会社（『保守サービスのご案内』参照）にお問い合わせの際には、円滑に対応させていただくために、お問い合わせの前に以下の内容をご確認のうえ、お問い合わせください。

Q.1 ご使用になっているパソコン名（形名）は？（本書表紙に表記）

機種名： _____

Q.2 ご使用になっているソフトウェア環境は？

Windows 8など、お使いのシステムとアプリケーションをお知らせください。

OS（システム）名： _____

その他： _____

Q.3 どのような症状が起きましたか？

症状： _____

Q.4 その症状はどのような操作をしたあと、発生するようになりましたか？

☐ ハードウェアの増設のあと（具体的に： _____）

☐ ソフトウェア導入のあと（具体的に： _____）

☐ その他（具体的に： _____）

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示内容： _____

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

☐ 一度発生したが、その後発生しない ☐ 常に発生する

☐ 電源を切らないと発生するが、電源を切って再起動すれば発生しない

☐ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する

☐ その他： _____

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作のあとですか？

☐ ある一定の操作をすると発生する

☐ どんな操作をしても発生する

☐ その他： _____

Q.8 使用中に青い画面（ブルースクリーン）が発生した場合、"Stop"のあとのエラーメッセージ内容は、どのような表記でしたか？

"Stop"を含むエラーメッセージ内容から、不具合原因の特定が可能となる場合があります。

表示内容：

Q.9 インターネットや通信に関するご相談の場合

プロバイダー名：

使用モデム名：

使用回線： ☐ブロードバンド

☐ダイヤルアップ接続

☐携帯電話／PHS 接続

☐ISDN 接続

Q.10 お問い合わせの内容が周辺機器の場合、ご使用になっている周辺機器名は何ですか？

機器名（製品名）：

メーカー名：

OSのバージョンやCPUの種類については、次の手順でご確認ください。

- ① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする→ [デスクトップアプリメニュー] アイコンをダブルクリックする
- ② [サポート&リカバリー] → [PC診断ツール] をクリックする
- ③ [基本情報] タブで確認する